

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

令和6年10月

板橋区教育委員会事務局指導室

目 次

I	令和6年度 全国学力・学習状況調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査の対象学年、調査方式	
3	調査の内容	
4	調査実施日	
5	調査を実施した学校数及び対象児童・生徒数	
II	教科に関する調査結果	
1	平均正答率の比較	2
2	平均無解答率の比較	2
3	正答数分布・観点別正答率からみた分析及び考察	
(1)	国語	5
①	小学校	
②	中学校	
(2)	算数・数学	6
①	小学校	
②	中学校	
4	各教科の結果の特徴	
(1)	小学校 国語・中学校 国語	7
(2)	小学校 算数・中学校 数学	1 1
III	児童・生徒質問紙に関する調査結果と正答率との関係性	
1	小学校	1 5
2	中学校	2 3
IV	学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析及び考察）	
1	小学校	3 1
2	中学校	3 3
V	まとめ	3 5

I 令和6年度 全国学力・学習状況調査の概要

II 教科に関する調査結果

I 令和6年度 全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・本取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象学年、調査方式

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

令和6年4月18日（木）

5 調査を実施した学校数及び対象児童・生徒数

	実施学校数	実施対象 児童・生徒数
小学校	52校（全校）	3,683人
中学校	22校（全校）	2,788人

Ⅱ 教科に関する調査結果

1 平均正答率の比較（令和6年度における板橋区・東京都・全国の正答率）

※ 国語、算数・数学の平均正答率を東京都・全国と比較した。

小学校		平均 正答率(%)		令和5年度 における差	令和4年度 における差	令和3年度に おける差
国語	区	70	差			
	都	70	0	0	-3.0	-1.0
	国	67.7	2.3	1.8	0.4	2.3
算数	区	67	差			
	都	68	-1.0	-1.0	-2.0	-2.0
	国	63.4	3.6	3.5	1.8	1.8

中学校		平均 正答率(%)		令和5年度 における差	令和4年度 における差	令和3年度に おける差
国語	区	60	差			
	都	61	-1.0	-2.0	-2.0	0
	国	58.1	1.9	0.2	-1.0	2.4
数学	区	56	差			
	都	57	-1.0	-3.0	-3.0	-1.0
	国	52.5	3.5	0	-0.4	1.8

2 平均無解答率の比較（令和6年度における板橋区・全国の無解答率）

※国語、算数・数学の平均無解答率を全国と比較した。

小学校		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度	
国語	区	5.2	差	6.0	差	8.3	差	5.6	差
	都	5.4	-0.2	6.3	-0.3	7.4	+0.9	5.4	+0.2
	国	4.2	+1.0	4.8	+1.2	5.7	+2.6	4.5	+1.1
算数	区	3.7	差	3.8	差	4.7	差	3.2	差
	都	3.8	-0.1	4.0	-0.2	4.0	+0.7	3.0	+0.2
	国	3.4	+0.3	3.4	+0.4	3.5	+1.2	2.6	+0.6

中学校		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度	
国語	区	3.3	差	4.3	差	4.4	差	3.9	差
	都	3.6	-0.3	4.2	+0.1	4.0	+0.4	3.8	+0.1
	国	3.9	-0.6	4.6	-0.3	4.3	+0.1	4.4	-0.5
数学	区	9.8	差	9.5	差	11.3	差	6.4	差
	都	9.9	-0.1	8.6	+0.9	9.9	+1.4	10.5	-4.1
	国	11.3	-1.5	9.6	-0.1	10.8	+0.5	11.2	-4.8

平均正答率・平均無解答率の比較

※小学校・中学校それぞれ、無解答率の高い問題の種類を取り上げた。（考察含む）

網掛けの問題は、「4 各教科の特徴」にて詳細な分析を記載する。

教科	問題番号	問題の概要	評価の観点	問題形式	無解答率(%)
小学校 国語	3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	思考・判断・表現	記述式	15.2
	2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	知識・技能	短答式	12.9
	3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	知識・技能	選択式	10.6
	2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）	知識・技能	短答式	7.8
	2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	思考・判断・表現	記述式	5.3

例年とは違い、漢字の2問について無解答率が高いが、全国や都の無解答率よりは低い。難しい問題であったと考えられるものの、本調査を利用して復習の必要がある。2二は記述式であるが、無解答率は5.3に留まり、児童が授業等で条件に合わせて自分の考えを記述することの成果が出ていると考えられる。3三も記述式で、一番無解答率が高い問題であったが、相関関係は特に見られず、考えたり書いたりする時間が足らなかった可能性も考えられる。日ごろの読書活動等で児童が自ら読書する機会が増えるとよい。

小学校 算数	5(3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。	思考・判断・表現	記述式	13.0
	3(3)	直径2.2cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。	思考・判断・表現	短答式	10.3
	4(4)	家から図書館までの自転車の早さが分速何mかを書く。	知識・技能	短答式	4.9
	5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く。	思考・判断・表現	短答式	4.8
	5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年をそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く。	知識・技能	短答式	4.4

3(3)は、東京都と比較して正答率が5.7p低い問題であり、なおかつ無解答率も高い問題である。詳細な分析については後述する。他の4題については、東京都と比較してほぼ同等の正答率であるが、無解答率が高く、学級の中で理解している児童の発言等だけで進めずに、学習についていけない児童への対応が求められる問題である。

中学校 国語	3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。	思考・判断・表現	記述式	12.1
	3三	漢字を書く。（みちたりた）	知識・技能	短答式	9.0
	1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。	思考・判断・表現	記述式	7.1
	2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。	思考・判断・表現	記述式	6.8

記述式の問題は無解答率が高い傾向はあるが、東京都や全国の平均と比べると板橋区は記述式の問題の無解答率は低く、生徒が授業等で条件に合わせて自分の考えを記述することの成果が出ていると考えられる。しかし、1割以上の生徒が無解答であり、自分の考えを記述するための支援を続ける必要がある。

教科	問題番号	問題の概要	評価の観点	問題形式	無解答率(%)
中学校 数学	9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。	思考・判断・表現	記述式	29.5
	6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和について予想できることを説明する。	思考・判断・表現	記述式	26.6
	7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、五つの箱ひげ図を比較して説明する。	思考・判断・表現	記述式	25.9
	6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する。	思考・判断・表現	記述式	18.6
	8(2)	18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。	思考・判断・表現	記述式	16.0
	1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す。	知識・技能	短答式	11.2

平均正答率は東京都の平均に追いついてきたものの、全体的に無解答率が高く、昨年度と同様に、特に記述式の問題は高い傾向にある。生徒質問紙「中学2年生までに受けた授業では、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」と「中学2年生までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」に肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校ほど、上記問題の無解答率が低い傾向があり、相関が見られた。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が、数学における無解答率の低下に結び付けることができる。

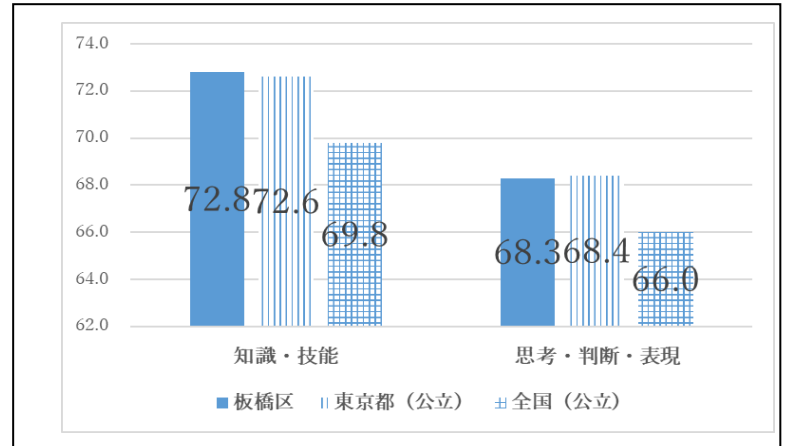
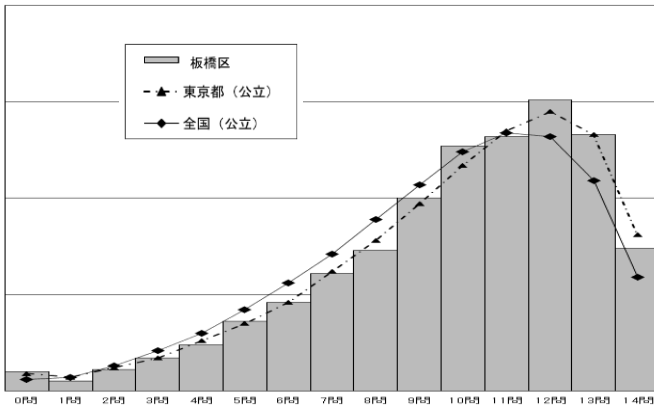
次ページ以降に示す相関は、便宜上以下のとおり相関係数を基にして表記している。

0.7 以上 1.0 未満 「強い正の相関がある」
 0.4 以上 0.7 未満 「正の相関がある」
 -0.7 以上 -0.4 未満 「負の相関がある」

3 正答数分布からみた分析及び考察

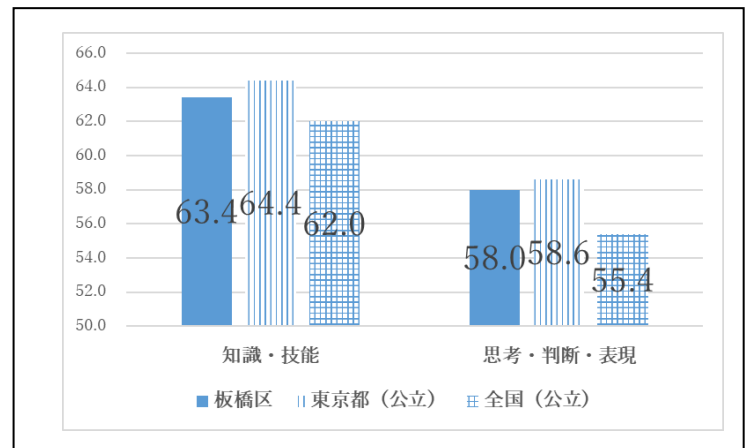
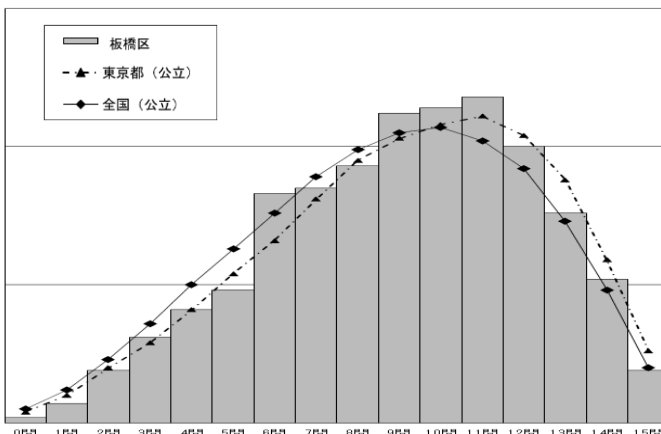
(1) 国語

①小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） 観点別正答率グラフ



- 平均正答率は、全国より2.3 p高く、東京都と同等である。
- 中央値は、板橋区10.0、東京都10.0、全国10.0である。
- 平均正答数は、板橋区9.8、東京都9.8、全国9.5である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
 - *知識・技能の問題では、全国より3.0 p高く、東京都より0.2 p高い。
 - *思考・判断・表現の問題では、全国より2.3 p高く、東京都より0.1 p低い。

② 中学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） 観点別正答率グラフ

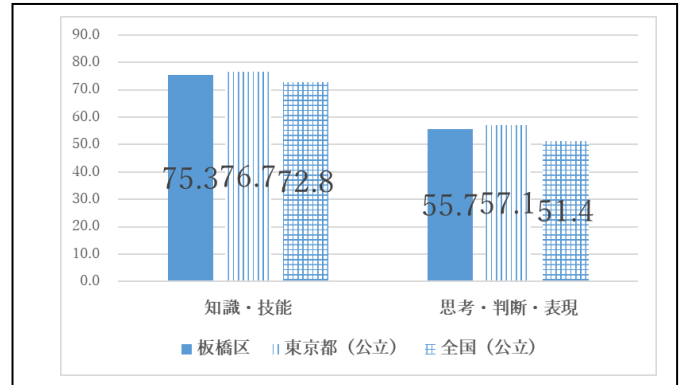
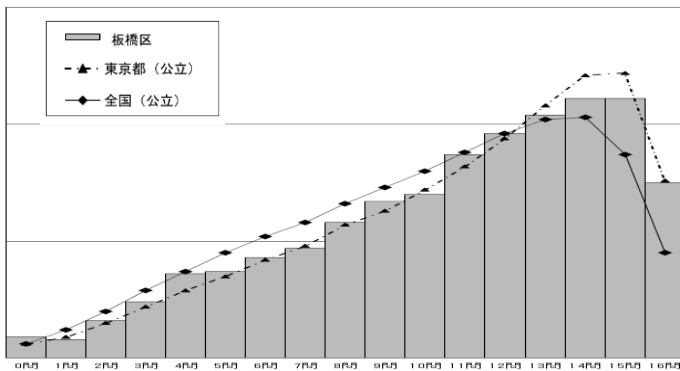


- 平均正答率は、全国より1.9 p高く、東京都より1.0 p低い。
- 中央値は、板橋区9.0、東京都9.0、全国9.0である。
- 平均正答数は、板橋区9.0、東京都9.1、全国8.7である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
 - *知識・技能の問題では、全国より1.4 p高く、東京都より1.0 p低い。
 - *思考・判断・表現の問題では、全国より2.6 p高く、東京都より0.6 p低い。

(2) 算数・数学

① 小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

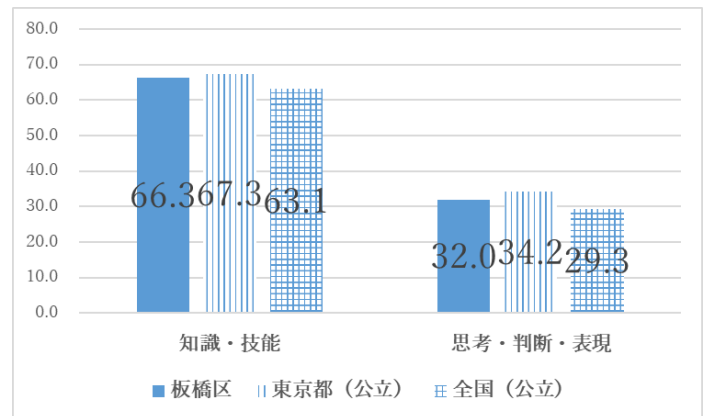
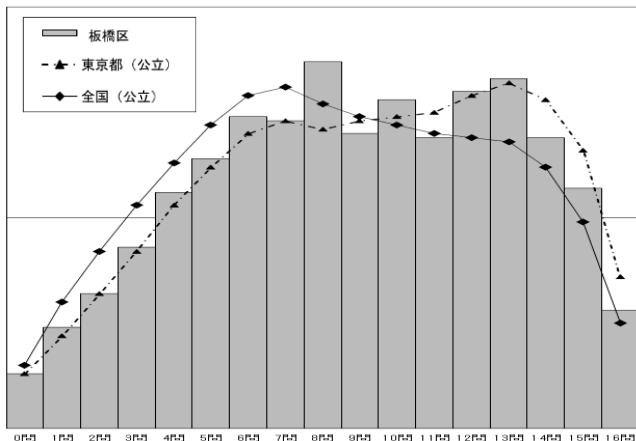
観点別正答率グラフ



- 平均正答率は、全国より3.6 p 高く、東京都より1 p 低い。
- 中央値は、板橋区11.0、東京都12.0、全国11.0である。
- 平均正答数は、板橋区10.7、東京都10.9、全国10.1である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
 - *知識・技能の問題では、全国より2.5 p 高く、東京都より1.4 p 低い。
 - *思考・判断・表現の問題では、全国より4.3 p 高く、東京都より1.4 p 低い。

② 中学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

観点別正答率グラフ



- 平均正答率は、全国より3.5 p 高く、東京都より1.0 p 低い。
- 中央値は、板橋区9.0、東京都9.0、全国8.0である。
- 平均正答数は、板橋区8.9、東京都9.1、全国8.4である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
 - *知識・技能の問題では、全国より3.2 p 高い、東京都より1.0 p 低く。
 - *思考・判断・表現の問題では、全国より2.7 p 高く、東京都より2.2 p 低い。

4 各教科の結果の特徴

(2) 小学校 国語

① 成果のあった問題

【1三】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.1 p）（全国から+6.2 p）

正答率 板橋区 70.0%（区内最高 82.5%） 東京都 68.9% 全国 63.8%

無解答率 板橋区 1.6% 東京都 1.4% 全国 0.9%

問題の概要

オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する。

学習指導要領における内容

〔第5・6学年〕 思考力、判断力、表現力等

A 話すこと・聞くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

考察

- ・正答率は、東京都を 1.1 p、全国を 6.2 p 上回った。
- ・集めた材料を分類したり関連付けたりして、話し合い活動をする授業展開が確実に実施されている成果が出ていると考えられる。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ
振り返り

実生活や総合的な学習の時間と結び付けた単元を構成するとともに、解決すべき課題を明確にしためあてを設定する。

2、3人の小グループでの話し合い活動を設定し、一人ひとりが自分の考えを伝えられるようにする。

【2二】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.6 p）（全国から+1.4 p）

正答率 板橋区 58.0%（区内最高 79.2%） 東京都 56.4% 全国 56.6%

無解答率 板橋区 5.3% 東京都 5.8% 全国 4.9%

問題の概要

【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く。

学習指導要領における内容

〔第5・6学年〕 思考力・判断力、表現力等

B 書くこと

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

考察

- ・板橋区が課題としていた「条件に合わせて記述する問題」であるが、中学校国語と同様に、都や全国より平均正答率が高かった。
- ・児童質問紙の内容に関する相関は見られなかった。
- ・無解答率は依然 5.3%と30人学級でも1から2人いると考えられる為、個別最適な学びが求められる。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ
振り返り

めあてを明確にするとともに、記述する内容や記述に用いる言葉や文、字数などの条件を設定する。

書くことに苦手意識のある児童に対しては、記述の仕方の型を示すなど、個に応じた支援を実施する。

② 課題のあった問題

【3三】正答率が都や全国より低い問題（東京都から－1.4 p）（全国から－3.0 p）

正答率 板橋区 69.6%（区内最高 86.0%） 東京都 71.0% 全国 72.6%

無解答率 板橋区 15.2% 東京都 15.7% 全国 12.6%

問題の概要

【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。

学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等

C 読むこと

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

考察

- ・正答率は、東京都を 1.4 p、全国を 3.0 p 下回った。
- ・全体的に正答率は低く、約 15% の児童が、物語を読んで、「心に残ったところとその理由」について記述することができない誤答であった。
- ・30 人学級で 4 人程度は無解答であることは無視できない事態であり、個別最適な学びが求められる。

授業革新のポイント

めあて

児童が「感想を伝えたい」という思いをもてるよう、目的や相手を意識しためあてを設定する。

自力解決

集団解決

段落ごとなどのまとまりの中で、「感想」と「理由」を繰り返し伝え合う学習活動を設定する。

まとめ
振り返り

4 各教科の結果の特徴

(1) 中学校 国語

① 成果のあった問題

【1四】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.9 p）（全国から+5.6 p）

正答率 板橋区 50.3%（区内最高 57.4%） 東京都 48.4% 全国 44.7%

無解答率 板橋区 7.1% 東京都 8.4% 全国 9.9%

問題の概要

話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く。

学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力・判断力・表現力等

A 話すこと・聞くこと

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

考察

- ・正答率は、東京都を 1.9 p、全国を 5.6 p 上回った。
- ・【1】二の問題に正答した生徒の正答率が高い傾向にある。（正の相関がある）2つの問題に共通することは、学習指導要領の内容の思考力、判断力、表現力等の「A 話すこと・聞くこと」であり、話合い活動をする授業展開が確実に実施されている成果が出ていると考えられる。
- ・板橋区が課題としていた「条件に合わせて記述する問題」であるが、小学校国語と同様に、都や全国より平均正答率が高かった。

授業革新のポイント

めあて

いくつかの条件を踏まえて自己の考えをまとめる活動をめあてに設定する。その際、どのような条件が設定されているか、生徒との対話を通して確認する。

自力解決

集団解決

集団解決場面では、ICT 機器を効果的に活用し、一人ひとりの考えを共有できるようにするとともに、少人数で話し合うことで、よりよい考えを創り出すことができるようにする。

まとめ
振り返り

② 課題のあった問題

【2四】 正答率が最も低い問題（東京都から－4.4 p）（全国から＋1.2 p）

正答率 板橋区 43.8%（区内最高 58.1%） 東京都 48.2% 全国 42.6%

無解答率 板橋区 6.8% 東京都 7.4% 全国 8.4%

問題の概要

本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。

学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等

C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

考察

- ・正答率は、東京都を 4.4p 下回った。
- ・全国や東京都と比べて、「必要な情報を適切に取り上げて書く」という条件を満たしていない誤答が多く、目的に応じて必要な情報に着目できる生徒が板橋区は少ないと考えられる。
- ・30人学級で2人程度は無解答であることは無視できない事態であり、個別最適な学びが求められる。

授業革新のポイント

めあて

問題文から読み取れる情報のうち、問題解決に必要な情報はどれか、生徒とともに検討する。

自力解決

集団解決

まとめ
振り返り

本時のめあてに対して、つまずきそうな生徒をあらかじめピックアップしておくとともに、必要な支援を事前に想定しておく。ヒントカード等を用意し、記述できない生徒（無回答の生徒）等が必要に応じて活用できるようにしておく。

4 各教科の結果の特徴

(2) 小学校 算数

① 成果のあった問題

【5】(2) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.5 p）（全国から+3.1 p）

正答率 板橋区 76.4%（区内最高 88.0%） 東京都 74.9% 全国 73.3%

無解答率 板橋区 4.4% 東京都 4.6% 全国 3.9%

問題の概要

示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年をそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く。

学習指導要領における内容

〔第3学年〕 D データの活用

(1) データ分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、表に表したり読んだりすること。

考察

- ・ 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する授業展開が確実に実施されている成果が出ていると考えられる。
- ・ 30人学級で1人程度は無解答であることは無視できない事態であり、個別最適な学びが求められる。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

二次元表の読み取りや情報を分類整理することに、つまずきそうな児童をあらかじめ想定しておくとともに、自力解決場面において、個別に支援を実施する。

【1】(1) 正答率が全国の平均より高い問題（東京都から-0.8 p）（全国から+4.0 p）

正答率 板橋区 66.1%（区内最高 83.9%） 東京都 66.9% 全国 62.1%

無解答率 板橋区 0.5% 東京都 0.4% 全国 0.2%

問題の概要

問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。

学習指導要領における内容

〔第2学年〕 A 数と計算

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ) 加法と減法との相互関係について理解すること。

考察

- ・ 東京都の平均とほぼ同等、全国と比べると高い正答率であった。
 - ・ 問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができる授業が実施されてきた成果が出ていると考えられる。
 - ・ 全国的に正答率は高くなく、30%の児童が、「少ない」という言葉から誤って減法を用いていると考えられる誤答であった。
- 下線部のような授業を継続する必要がある。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

導入場面で、指導者が文章中の主語や述語を確認するなど、問題場面を正しく捉えられるようにする。

図や表を用いた複数の考え方を比較・検討することで、根拠を明確にして立式することのよさを実感できるようにする。

② 課題のあった問題

【5(1)】正答率が都や全国より低い問題（東京都から－4.5 p）（全国から－2.9 p）

正答率 板橋区 77.9%（区内最高 90.0%） 東京都 82.4% 全国 80.8%

無解答率 板橋区 2.7% 東京都 2.2% 全国 1.8%

問題の概要

円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く。

学習指導要領における内容

〔第5学年〕 D データの活用

(1)データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項が身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。

考察

- ・円グラフの特徴を理解し、円グラフの一目盛りの大きさを正しく捉え、目盛りを数えたり読んだりすることを確実に実施する授業が求められていると考えられる。
- ・目盛りの数え間違いの誤答が12%程度、また、30人学級で1人程度は無解答であることは無視できない事態であり、個別最適な学びが求められる。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

目盛りの数を読み取れば正解が導き出せるような、比較的取り組みやすい問題においても、複数の方法で取り組むようにすることで、よりよい解決方法に着目できるようにする。

【3(3)】正答率が都より著しく低い問題（東京都から－5.7 p）（全国から＋3.1 p）

正答率 板橋区 39.6%（区内最高 66.7%） 東京都 45.3% 全国 36.5%

無解答率 板橋区 10.3% 東京都 10.8% 全国 9.8%

問題の概要

直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

学習指導要領における内容

〔第5学年〕 B 図形

(4)立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

考察

- ・児童質問紙「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に肯定的な回答をした児童は、正答率が高い傾向にある。（正の相関がある）
- ・全国や東京都と比べて22×22という誤答した児童が多く、球の直径を活用することは理解しているものの、体積が求められない児童が板橋区は多いと考えられる。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

身近な場面と結び付けながら問題の内容を捉えられるようにするとともに、どのような情報があれば問題解決ができるか、検討する。また、球の体積の求め方など、この問題を解決するために必要な既習事項について、着実に確認する。

4 各教科の結果の特徴

(1) 中学校 数学

① 成果のあった問題

【7】(2) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.0p）（全国から+3.9p）

正答率 板橋区 29.8%（区内最高 43.0%） 東京都 28.8% 全国 25.9%

無解答率 板橋区 25.9% 東京都 26.3% 全国 29.4%

問題の概要

車型ロボットについて「速さが段階Ⅰから段階Ⅴまで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、五つの箱ひげ図を比較して説明する。

学習指導要領における内容

〔第2学年〕 D データの活用

(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。

考察

- ・ 生徒質問紙「中学2年生間での授業で、**学級の生徒との間で話し合う活動**を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に肯定的な解答をした生徒ほど正答率が高い。（正の相関）
- ・ 正答率は全国や東京都の平均より高く、無解答率も全国や東京都の平均より低いものの、依然無解答率が高く、正答率は低いことから、右記記載の様な授業を継続する必要がある。
- ・ 昨年度も箱ひげ図が出題されたが、正答率が大幅に向上し、区内において箱ひげ図についての授業の成果が出ていると考えられる。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ
振り返り

最頻値・四分位数等の用語を全ての生徒が確認・理解できるようにする。まずは自力で取り組む時間をしっかり確保する。

自分の考えを書いたり、話したりする活動を繰り返し取り入れる。共有場面においては、一人一台端末を活用することで、友達の説明の仕方を参照しながら、自分の説明の仕方を振り返ることができるようにする。

② 課題のあった問題

【8】(2) 正答率が最も低い問題（東京都から－3.4 p）（全国と同率）

正答率 板橋区 17.1%（区内最高 25.9%） 東京都 20.5% 全国 17.1%

無解答率 板橋区 16.0% 東京都 15.2% 全国 16.4%

問題の概要

18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。

学習指導要領における内容

〔第2学年〕 C 関数

(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

考察

- ・【8】(1) の正答率と正の相関がある。
- ・誤答に、「『強』のグラフと『弱』のグラフのy座標が0である点に着目」のみを記述している生徒が東京都や全国と比べて高い。
- 知識・技能は定着しているが、それを活用して思考・判断・表現することが苦手な生徒が東京都や全国と比べると板橋区は多い。
- ・生徒質問紙「中学2年生までの授業で、学習した内容について、**分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか**」に肯定的な回答をした生徒は、正答率が高い傾向にある。（正の相関がある）

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ
振り返り

授業者は、グラフの読み取りが苦手な生徒をあらかじめ想定しておき、意図的に個別支援する。その際、一方的に教えるのではなく、例えば「x軸は何を表しているのかな。」などと段階的に問いかけるようにする。

分かった点やよく分からなかった点を視点に、自己の学習状況を振り返ることができるようにする。

【9】(1) 正答率が低い問題（東京都から－4.3 p）、無回答率が高い問題（東京都から＋1.8 p）

正答率 板橋区 29.6%（区内最高 41.9%） 東京都 33.9% 全国 25.8%

無解答率 板橋区 29.5% 東京都 27.7% 全国 33.6%

問題の概要

点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。

学習指導要領における内容

〔第2学年〕 B 図形

(2) 図形の合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。

考察

- ・ $AC=PC$ 、 $CQ=CB$ のみ記述している誤答が、東京都や全国と比べると割合が高い。
- ・無解答率も約30%と、非常に高く、東京都と比べても割合が高い。
- 角度が等しいことを表現できない生徒が、東京都や全国と比べると板橋区は多い。

授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

問題文から読み取れること、図形から気付くこと等を全体で確認することで、解決すべき課題、照明すべき内容を明確にした上で、自力解決に取り組ませる。

Ⅲ 児童・生徒質問紙に関する調査結果

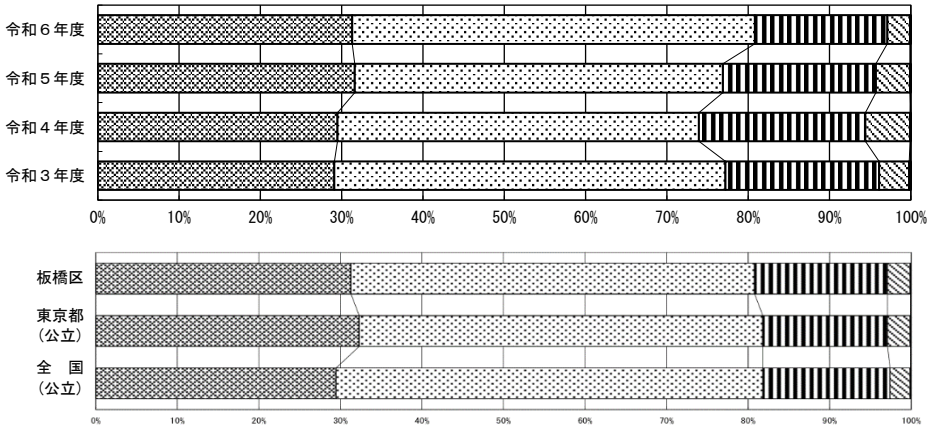
児童質問紙調査

Ⅰ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【30】5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



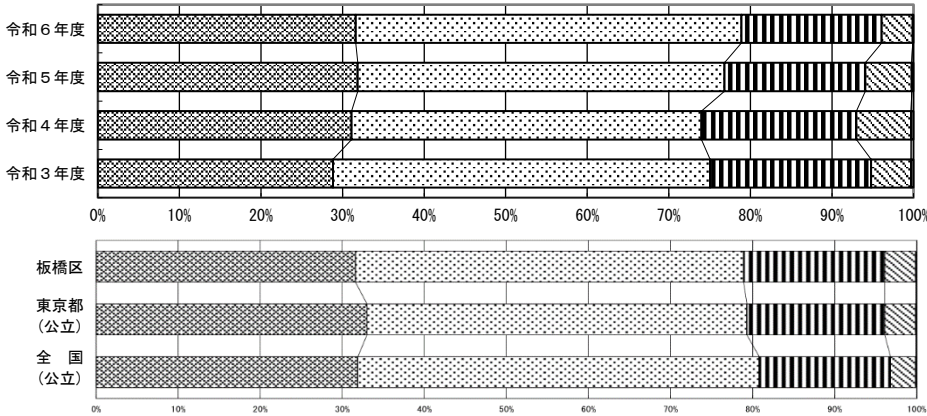
板橋区

授業改善のポイント

授業や単元の始めに、児童が学習課題を設定し、学習方法を考えたり、選んだりする活動を行う。

【34】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

授業改善のポイント

授業や単元の終わりに、学習内容や学習方法について振り返る時間を設け、自らの学びを調整する力を育成する。

「社会経済的背景(SES)」と「主体的・対話的で深い学び」が正答数に与える影響【小学校 国語】

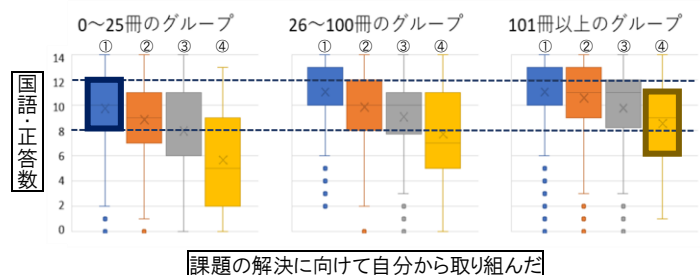
家庭の社会経済的背景(SES:Socio-Economic Status)が低いグループほど、各教科の正答数が少ない傾向が見られるが、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答数が多い傾向が見られる。

【1】家にある本の冊数

【2】課題の解決に向けて自分から取り組んだ

- ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

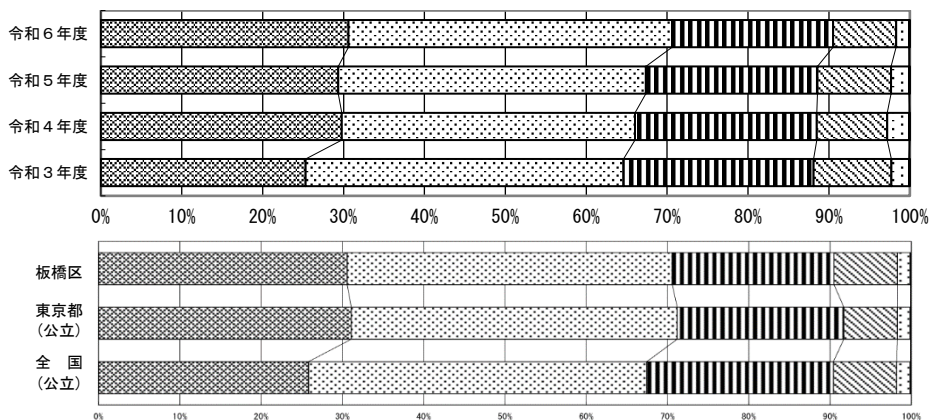
【3】正答数(小学校 国語)



※「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果」(国立教育政策研究所)をもとに、板橋区の結果を分析

【29】5年生までに受けた授業で、自分の考えを发表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して发表していましたか。

- ☐ 1. 发表していた ☐ 2. どちらかといえば、发表していた ☐ 3. どちらかといえば、发表していなかった
☐ 4. 发表していなかった ☐ 5. 考えを发表する機会はなかった ☐ その他
☐ 無回答



経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

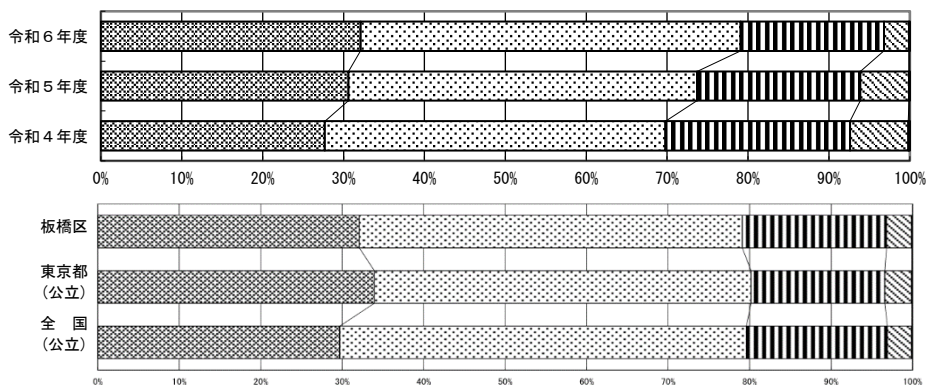
全国 < 板橋区

授業改善のポイント

一人一台端末も活用し、情報の収集や整理分析、まとめなど、児童が試行錯誤しながら学習する機会を設ける。

【31】5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

- ☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

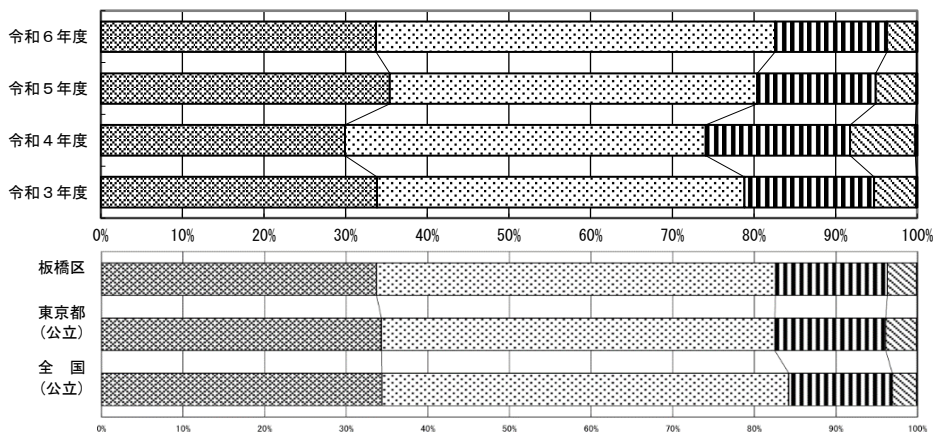
授業改善のポイント

単元配列表を活用し、各教科等と総合的な学習の時間を計画的に関連付ける。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

【32】5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

- ☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

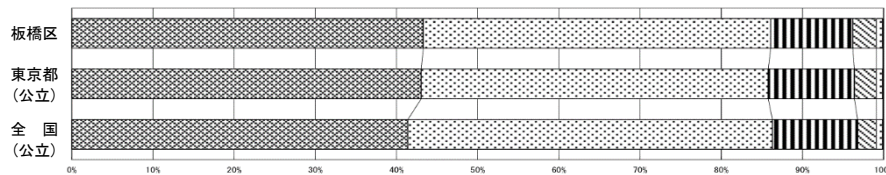
全国 ≡ 板橋区

授業改善のポイント

学習の振り返りや、一人一台端末等を活用し、児童が自分の学習状況を把握したり、工夫したりする機会を設ける。

【37】授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

- ☐ 1. 当てはまる
☐ 2. どちらかといえば、当てはまる
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない
☐ 4. 当てはまらない
☐ その他
☐ 無回答



経年変化 初

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

授業改善のポイント

課題の設定を工夫し、一人ひとりの児童が多様な考えをもち、学び合うことに意義を感じられる学習活動を設定する。

「板橋区授業スタンダード」の視点からの授業改善

INPUT 「学習課題・めあての設定」 …児童が学習内容と学習方法を身に付けられるような工夫

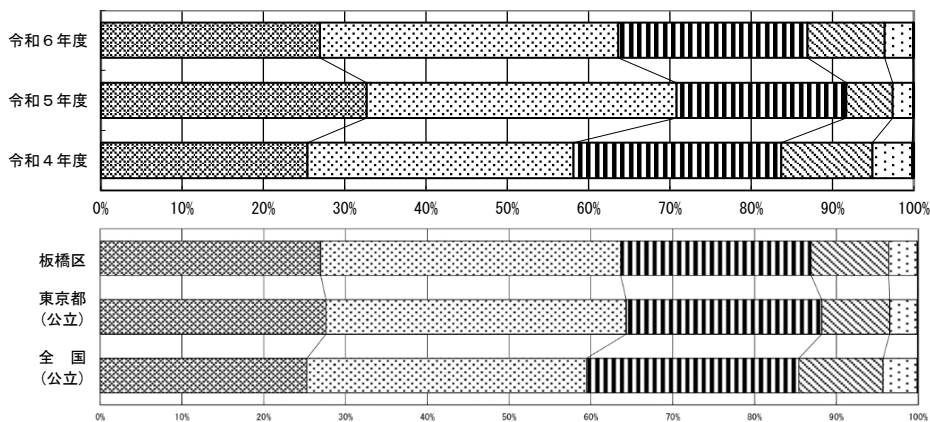
THINK 「自力解決」 …一人一台端末を活用し、「自力解決」と「集団解決」を行き来しながら試行錯誤する

OUTPUT 「集団解決」「まとめ・振り返り」 …教科等横断的な学びで成果が上がっている

(3) いたばし学び支援プラン 2025 3つの柱 GIGA スクール構想

【27】5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

- ☐ 1. ほぼ毎日 ☐ 2. 週3回以上 ☐ 3. 週1回以上 ☐ 4. 月1回以上 ☐ 5. 月1回未満 ☐ その他 ☐ 無回答



経年変化 →

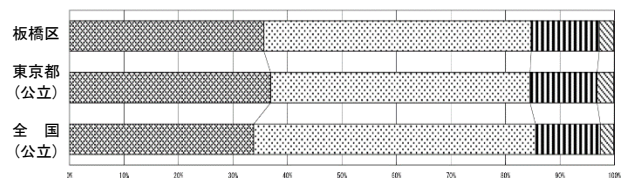
東京都 ≡ 板橋区

全国 < 板橋区

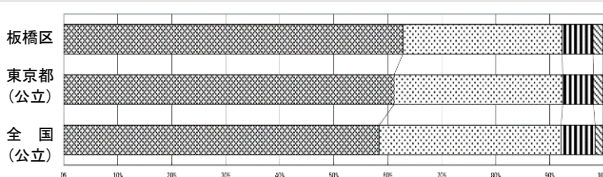
小学校では、令和5年度と比べて、「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合が低下している。

学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することをどのように感じているか。【28-1~7】

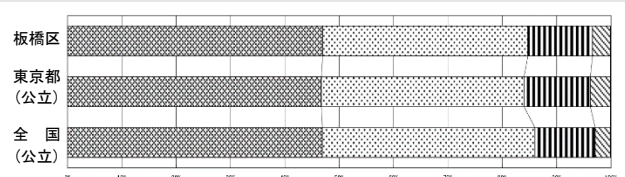
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



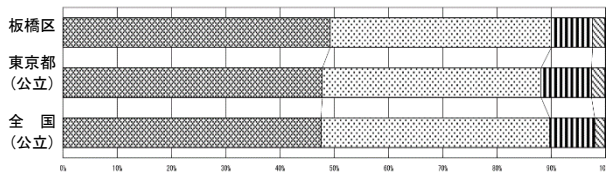
分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



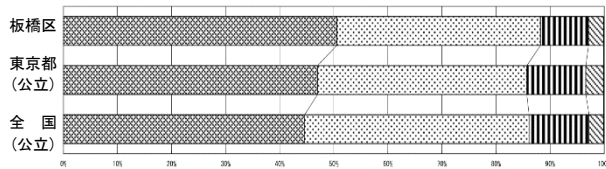
楽しみながら学習を進めることができる



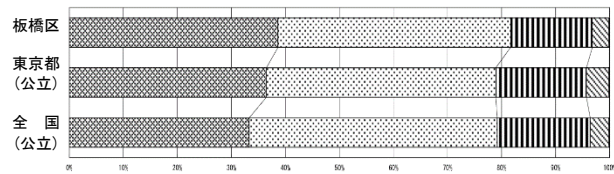
画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。



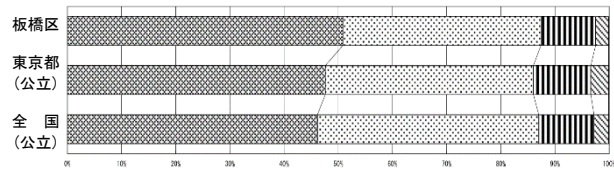
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。



自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



友達と協力しながら学習を進めることができる。



「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を実現するための一人一台端末の活用

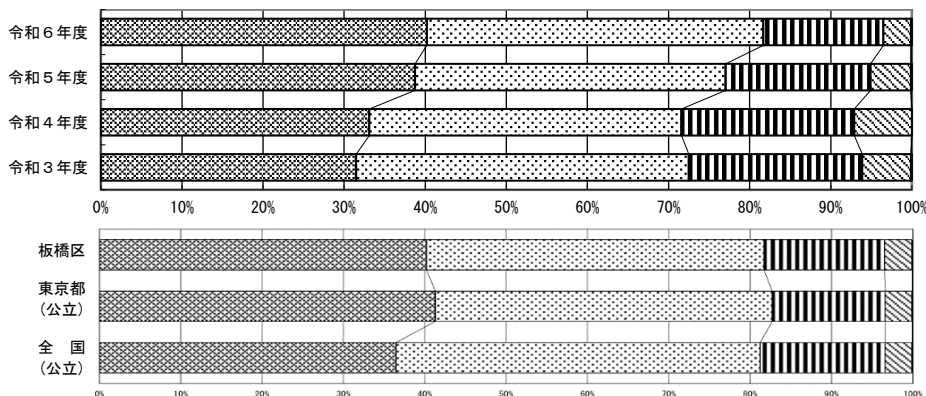
学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、どの質問項目でも8割以上の児童が肯定的な回答をしている。課題の解決に向けて自分で考え、自分から学習に取り組んだ児童の正答率が高い傾向があることから、学習の中で、児童が自分の必要感に応じて一人一台端末を活用したり、友達のことを参考にしたりできるような学習方法の工夫が必要である。また、児童が一人一台端末を使いこなすための情報活用能力や情報モラルの育成にも取り組んでいく必要がある。

【参考】「板橋区 児童・生徒の情報活用能力育成の指標」(教員用 GIGA ポータルサイト等に掲載)

(4) 授業革新の要 総合的な学習の時間の充実

【38】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



経年変化



東京都

≡

板橋区

全国

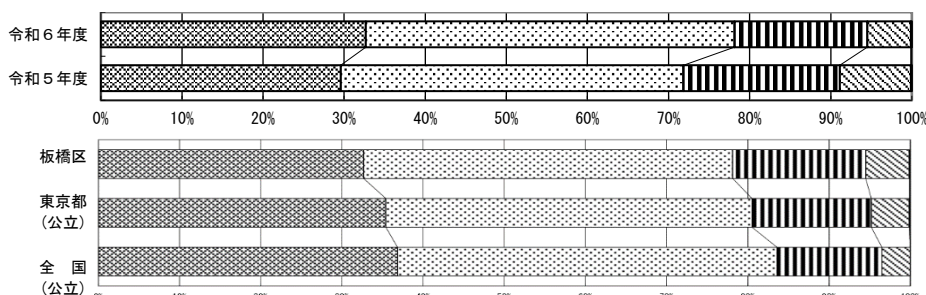
≡

板橋区

探究のサイクルを取り入れた総合的な学習の時間の取組が、年々充実している。

【25】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



経年変化



東京都

≡

板橋区

全国

≫

板橋区

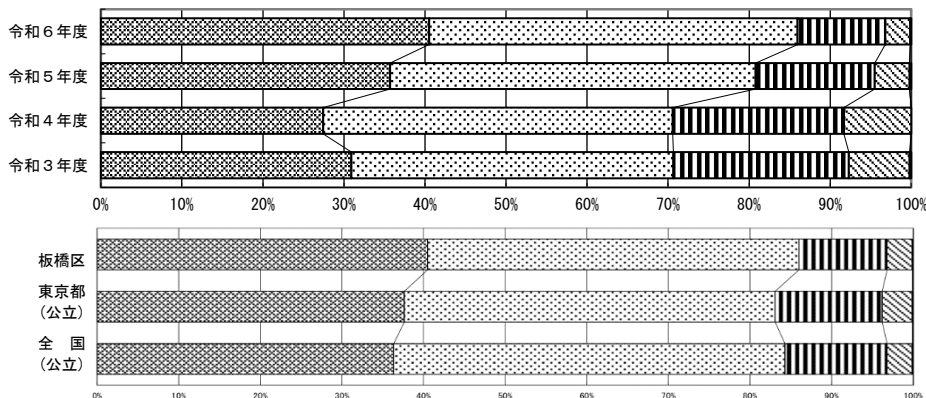
総合的な学習の時間の充実と、「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」についての肯定的な回答には相関関係がある。(相関係数 0.53)

「郷土愛」の育成に向け、総合的な学習の時間における探究のサイクルの充実に取り組んでいく。

(5) 学級活動

【39】あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

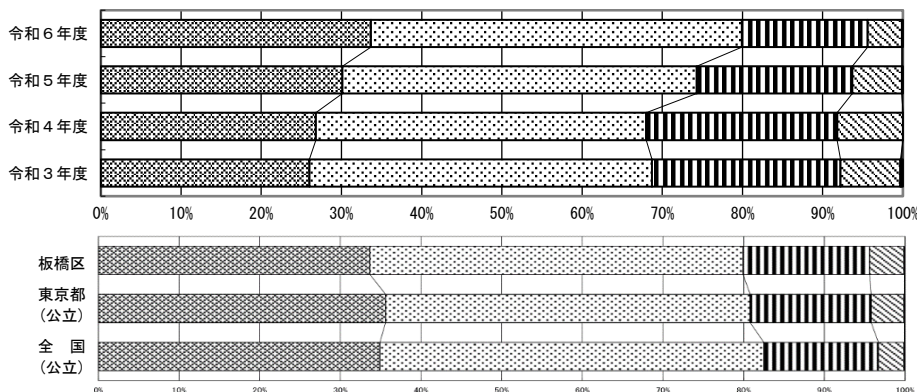


板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答は、86%に達した。

【40】学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答は、80%に達した。

学級での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

・自分にはよいところがある 0.48

・いじめは、どんな理由があってもいけない 0.46

・人の役に立ちたい 0.48

・学校が楽しい 0.45

・人が困っているときは、進んで助けている 0.49

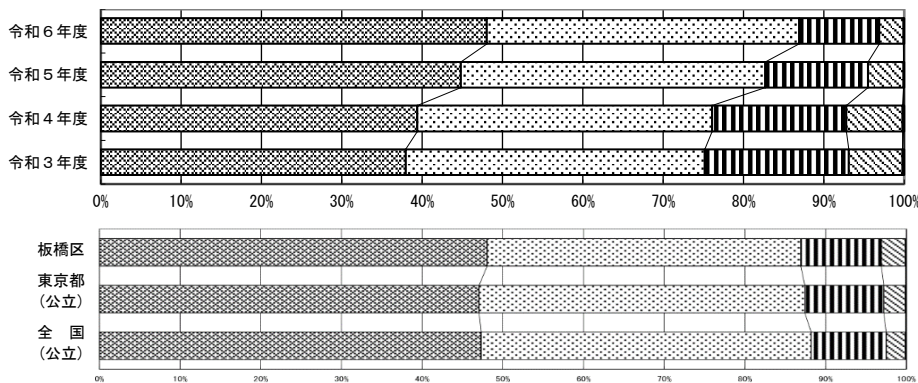
・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.66

・地域や社会をよりよくするために何かしたい 0.62

(6) 道徳

【41】道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



経年変化



東京都

≡

板橋区

全国

≡

板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答は、87%に達した。

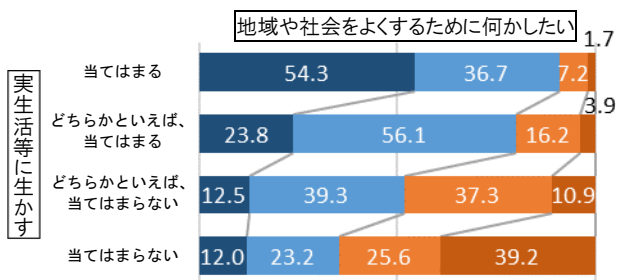
道徳での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

- ・自分にはよいところがある 0.59
- ・いじめは、どんな理由があってもいけない 0.58
- ・人の役に立ちたい 0.63
- ・友達関係に満足している 0.47
- ・地域や社会をよくするために何かしたい 0.58

- ・人が困っているときは、進んで助けている 0.48
- ・学校が楽しい 0.60
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.48
- ・幸せな気持ちになることがある 0.42

(7) 持続可能な社会の創り手の育成

【35】授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる

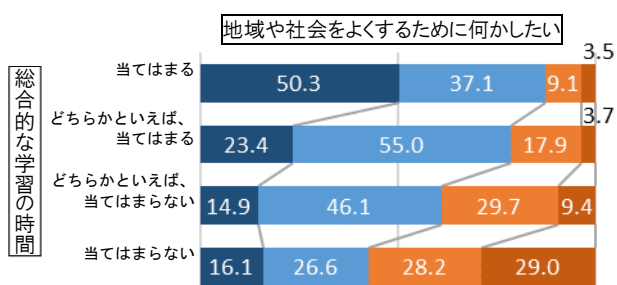


■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

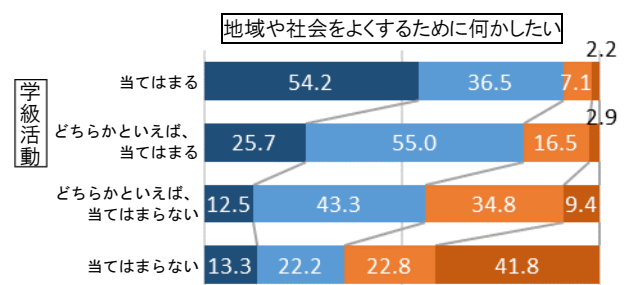
「授業で学んだことを実生活に生かすことができる」「総合的な学習の時間」「学級活動」の質問で肯定的な回答をしている児童ほど、「地域や社会をよくするために何かしたい」という質問にも肯定的に回答している。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「総合的な学習の時間」「学級活動」の充実が、「持続可能な社会の創り手」の育成につながる可能性がある。

【38】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



【40】学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか



(8) ウェルビーイングの向上

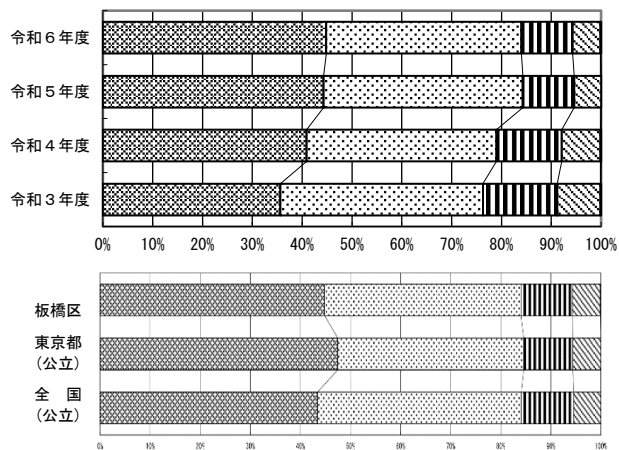
【9】自分には、よいところがある。

経年変化 ↗

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

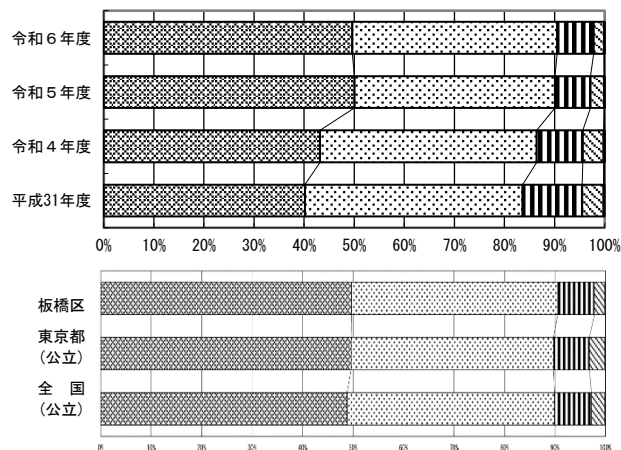


【10】先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区



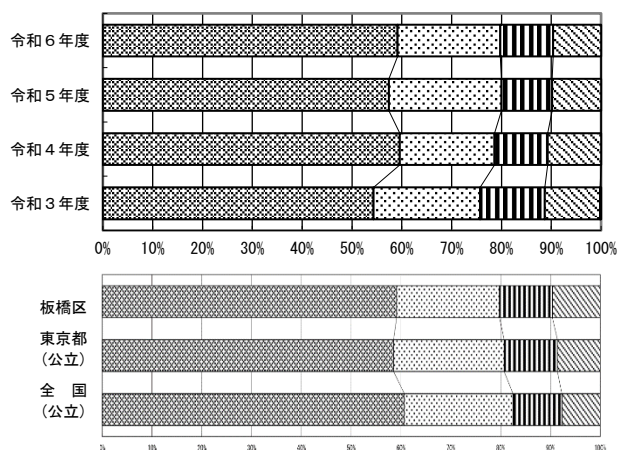
【11】将来の夢や目標を持っている。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

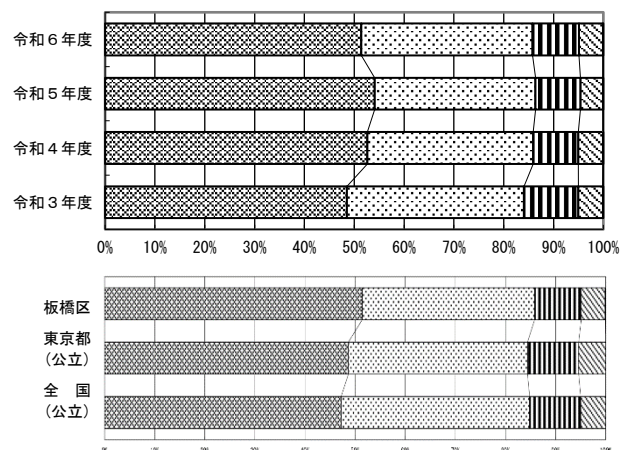


【16】学校に行くのは楽しいと思う。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区



【18】友達関係に満足している。

経年変化



- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答

東京都

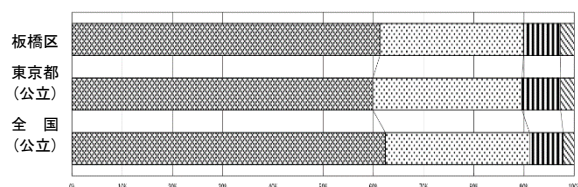
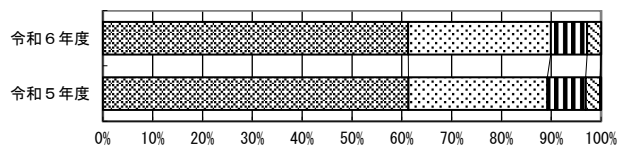


板橋区

全国



板橋区



【19】普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。

経年変化



- 1. よくある
- 2. ときどきある
- 3. あまりない
- 4. 全くない
- その他
- 無回答

東京都

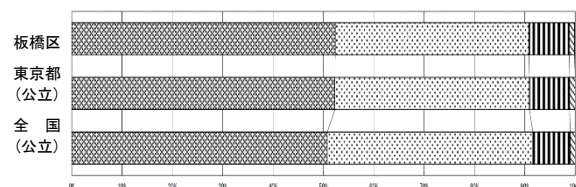
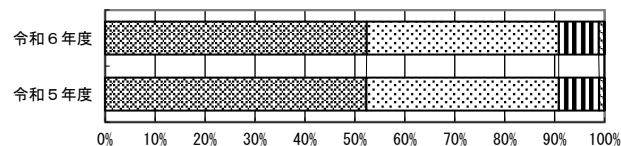


板橋区

全国



板橋区



○「先生がよいところを認めてくれる」と「自分にはよいところがある」(0.42)、「学校に行くのは楽しい」(0.33)には相関関係がある。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と「自分にはよいところがある」(0.31)、「学校に行くのは楽しい」(0.32)、「幸せな気持ちになることがある」(0.34)には相関関係がある。

教師をはじめとして多様な大人と関わり、よいところを認められる経験、いつでも相談できるという安心感をもつことが、児童のウェルビーイングの向上につながると考えられる。

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。（「教育振興基本計画」令和5年6月16日閣議決定）

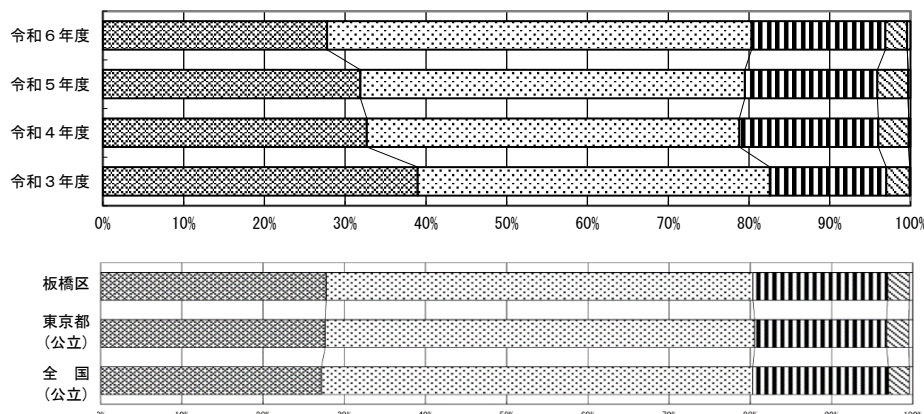
生徒紙調査

Ⅰ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【30】1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



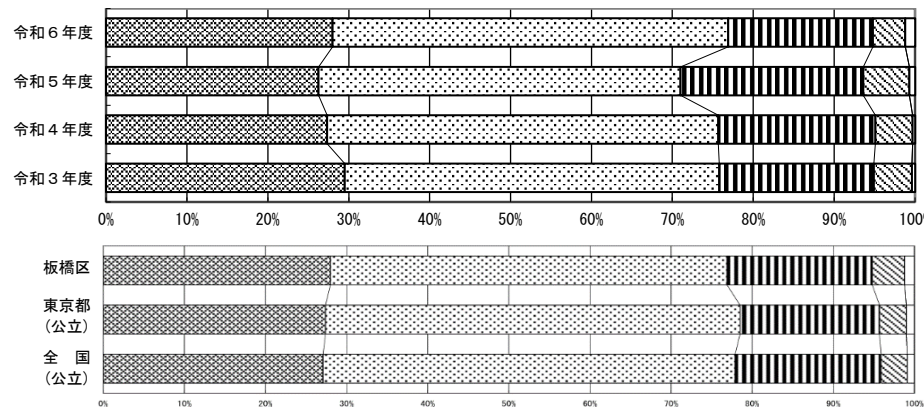
板橋区

授業改善のポイント

年間を見通して、各教科等の中で、生徒が学習方法を考えたり、選んだりする活動を計画的に行う。

【34】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

授業改善のポイント

授業や単元の終わりに、学習内容や学習方法について振り返る時間を設け、自らの学びを調整する力を育成する。

「社会経済的背景(SES)」と「主体的・対話的で深い学び」が正答数に与える影響【中学校 数学】

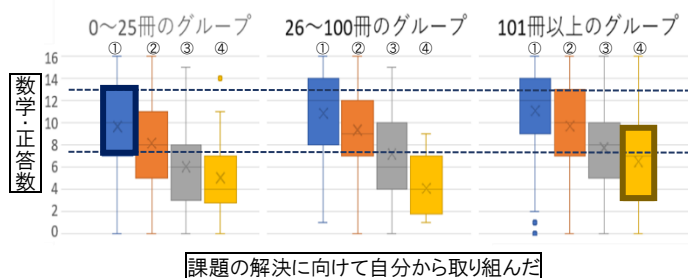
家庭の社会経済的背景(SES:Socio-Economic Status)が低いグループほど、各教科の正答数が少ない傾向が見られるが、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ生徒は、SES が低い状況にあっても、各教科の正答数が多い傾向が見られる。

【1】家にある本の冊数

【2】課題の解決に向けて自分から取り組んだ

- ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

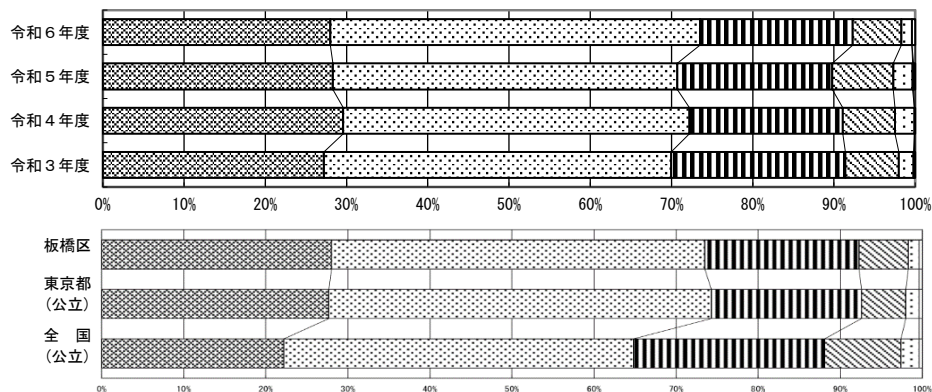
【3】正答数(中学校 数学)



※「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果」(国立教育政策研究所)をもとに、板橋区の結果を分析

【29】1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

- ☐1. 発表していた ☐2. どちらかといえば、発表していた ☐3. どちらかといえば、発表していなかった
☐4. 発表していなかった ☐5. 考えを発表する機会はなかった ☐その他
☐無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

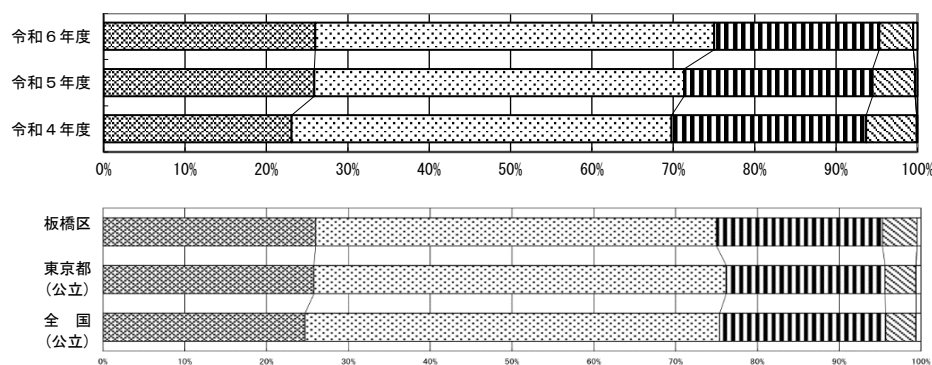
全国 ≡ 板橋区

授業改善のポイント

一人一台端末も活用し、情報の収集や整理分析、まとめなど、生徒が試行錯誤しながら学習する機会を設ける。

【31】1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

- ☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

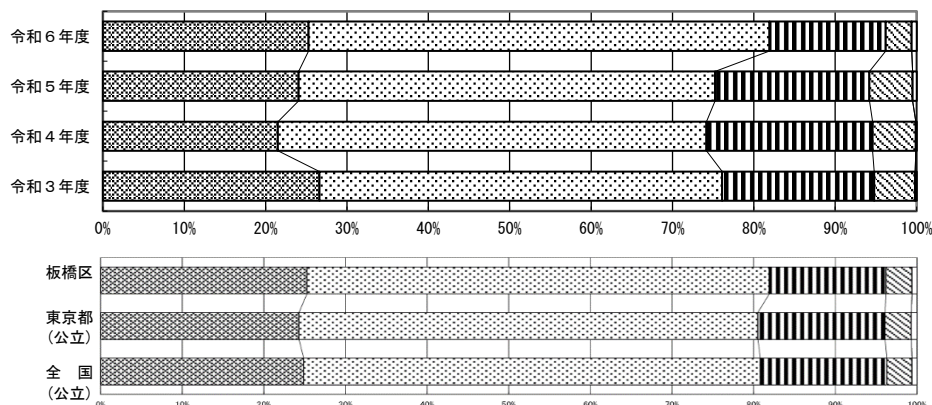
授業改善のポイント

単元配列表を活用し、各教科等と総合的な学習の時間を計画的に関連付ける。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

【32】1、2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

- ☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

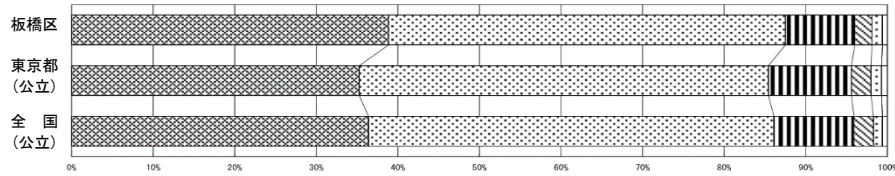
全国 ≡ 板橋区

授業改善のポイント

学習の振り返りや、一人一台端末等を活用し、生徒が自分の学習状況を把握したり、工夫したりする機会を設ける。

【37】授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

- ☐ 1. 当てはまる
☐ 2. どちらかといえば、当てはまる
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない
☐ 4. 当てはまらない
☐ その他
☐ 無回答



経年変化 初

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

授業改善のポイント

課題の設定を工夫し、一人ひとりの生徒が多様な考えをもち、学び合うことに意義を感じられる学習活動を設定する。

「板橋区授業スタンダード」の視点からの授業改善

INPUT 「学習課題・めあての設定」 …生徒が学習内容と学習方法を身に付けられるような工夫

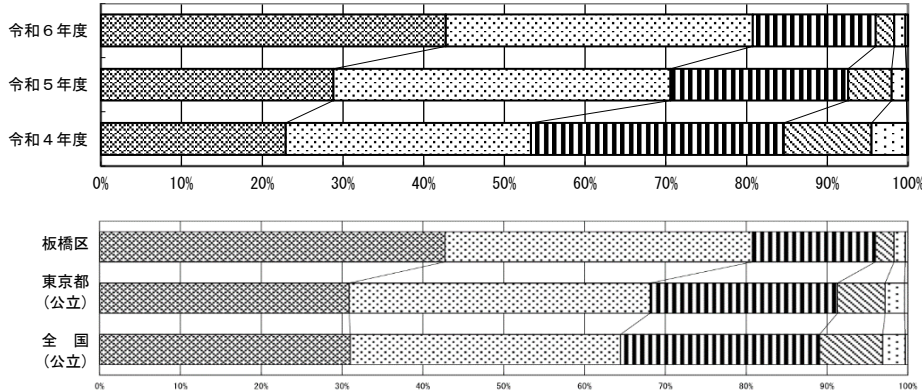
THINK 「自力解決」 …一人一台端末を活用し、「自力解決」と「集団解決」を行き来しながら試行錯誤する

OUTPUT 「集団解決」「まとめ・振り返り」 …教科等横断的な学びで成果が上がっている

(3) いたばし学び支援プラン 2025 3つの柱 GIGA スクール構想

【27】1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

- ☐ 1. ほぼ毎日
☐ 2. 週3回以上
☐ 3. 週1回以上
☐ 4. 月1回以上
☐ 5. 月1回未満
☐ その他
☐ 無回答



経年変化 ↗

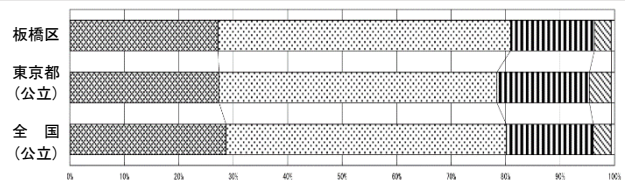
東京都 ≪ 板橋区

全国 ≪ 板橋区

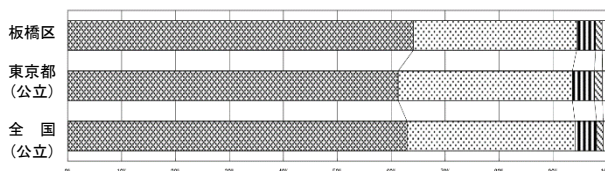
「ほぼ毎日」と「週3回以上」で8割を上回り、順調に日常的な活用が進んでいる。

学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することをどのように感じているか。【28-1~7】

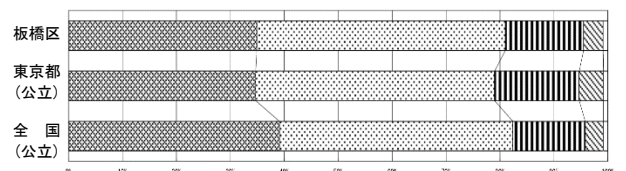
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



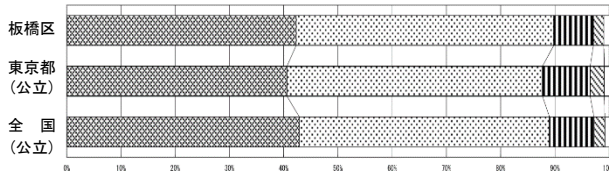
分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



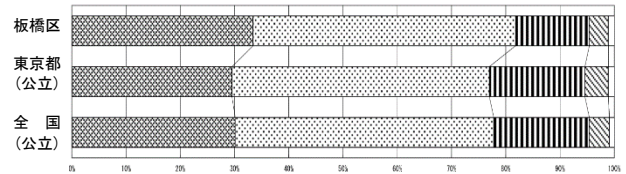
楽しみながら学習を進めることができる



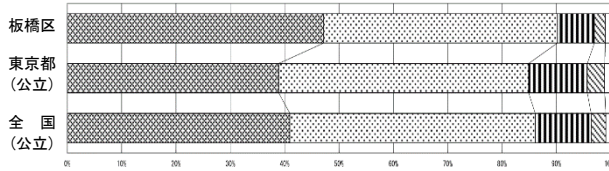
画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



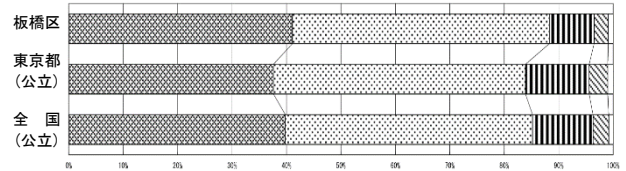
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



友達と協力しながら学習を進めることができる



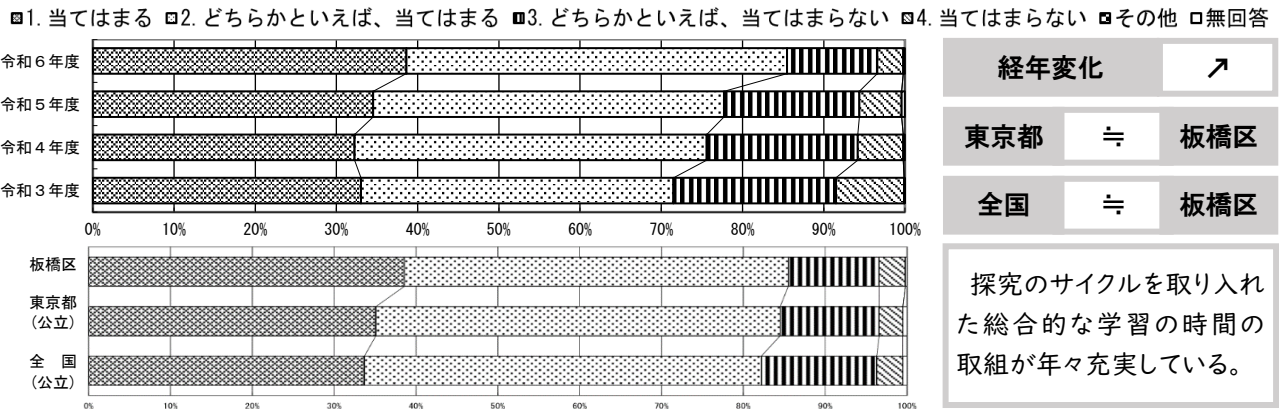
「個別最適な学びと協同的な学びの一体的充実」を実現するための一人一台端末の活用

学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、どの質問項目でも8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。課題の解決に向けて自分で考え、自分から学習に取り組んだ児童の正答率が高い傾向があることから、学習の中で、生徒が自分の必要感に応じて一人一台端末を活用したり、友達のことを参考にしたりできるような学習方法の工夫が必要である。また、生徒が一人一台端末を使いこなすための情報活用能力や情報モラルの育成にも取り組んでいく必要がある。

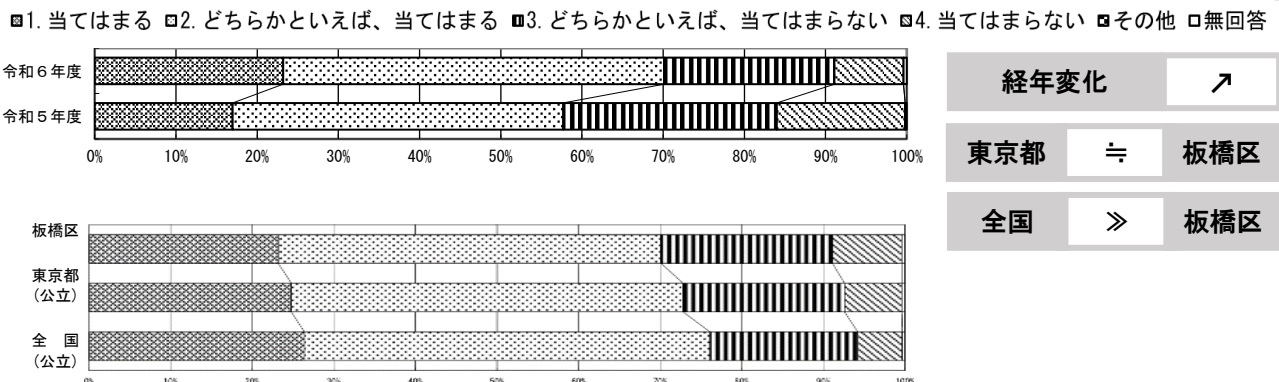
【参考】「板橋区 児童・生徒の情報活用能力育成の指標」(教員用 GIGA ポータルサイト等に掲載)

(4) 授業革新の要 総合的な学習の時間の充実

【38】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



【25】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



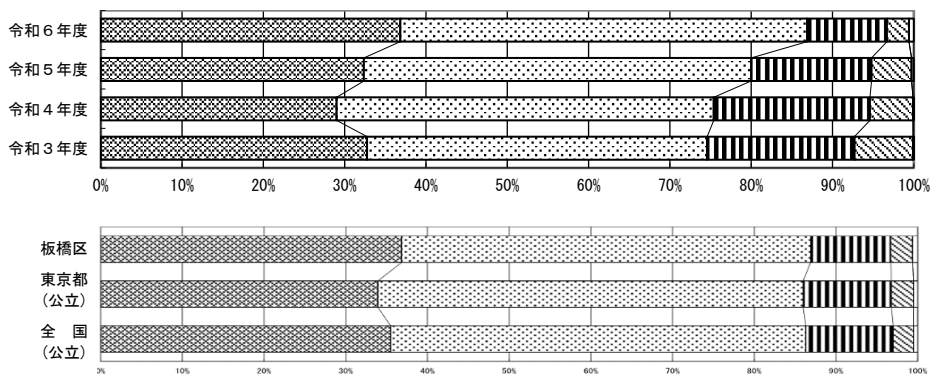
総合的な学習の時間の充実と、「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」についての肯定的な回答には相関関係がある。(相関係数 0.32)

「郷土愛」の育成に向け、総合的な学習の時間における探究のサイクルの充実に取り組んでいく。

(5) 学級活動

【39】あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

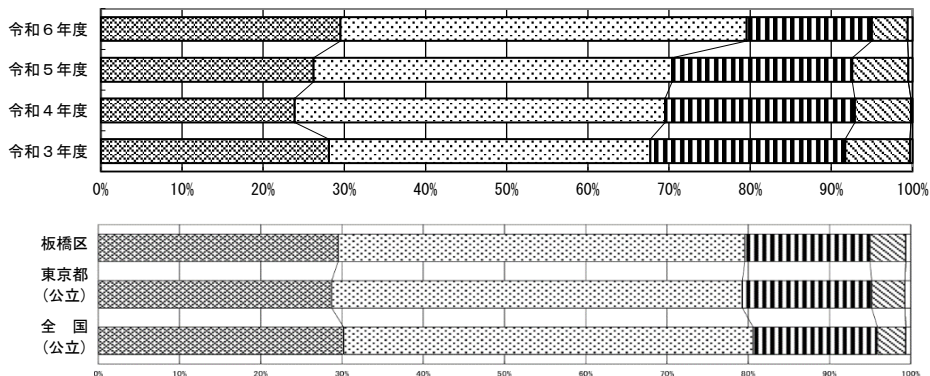


板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答は、86%に達した

【40】学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的は、79%に達した。

学級での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

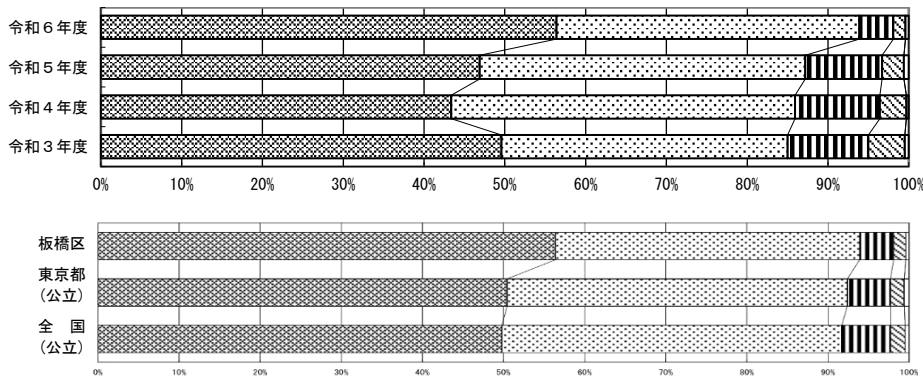
- ・自分によいところがある 0.45
- ・困っている人を進んで助けている 0.47
- ・学校が楽しい 0.46
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.69

- ・人の役に立ちたい 0.31
- ・友達関係に満足している 0.43
- ・幸せな気持ちになることがある 0.64
- ・地域や社会をよりよくするために何かしたい 0.64

(6) 道徳

【41】道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答は、93%に達した。

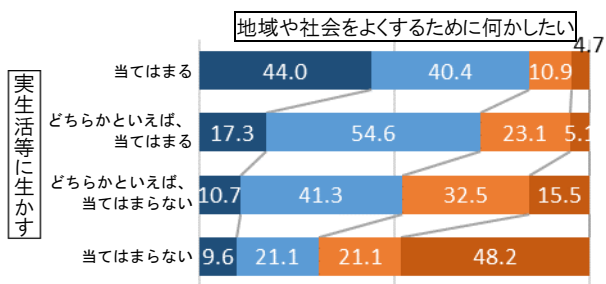
道徳での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

- ・いじめは、どんな理由があってもいけない 0.63
- ・困っている人を進んで助けている 0.40
- ・人の役に立ちたい 0.55

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.36
- ・友達関係に満足している 0.38

(7) 持続可能な社会の創り手の育成

【35】授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる

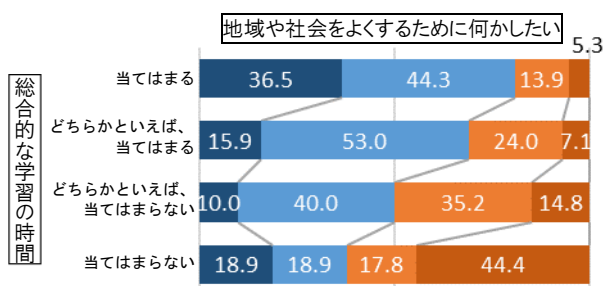


■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

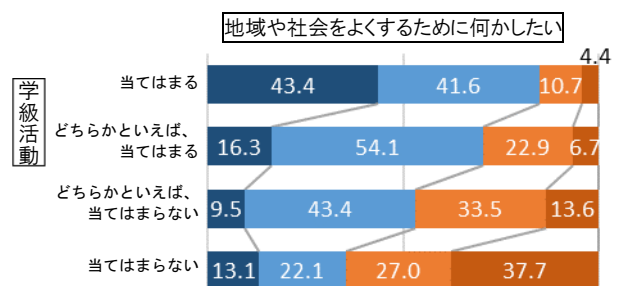
「授業で学んだことを実生活に生かすことができる」「総合的な学習の時間」「学級活動」の質問で肯定的な回答をしている生徒ほど、「地域や社会をよくするために何かしたい」という質問にも肯定的に回答している。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「総合的な学習の時間」「学級活動」の充実が、「持続可能な社会の創り手」の育成につながる可能性がある。

【38】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



【40】学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか



(8) ウェルビーイングの向上

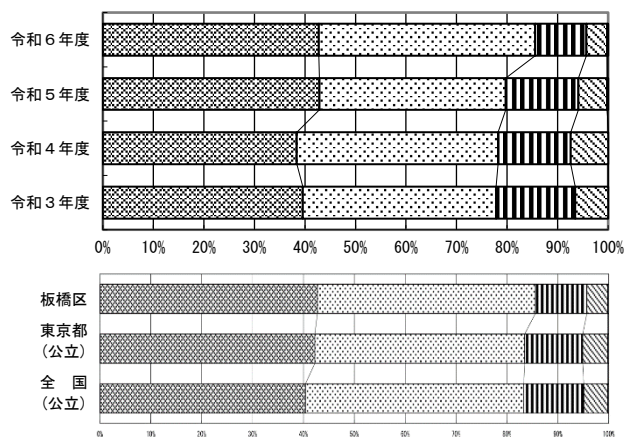
【9】自分には、よいところがある。

経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

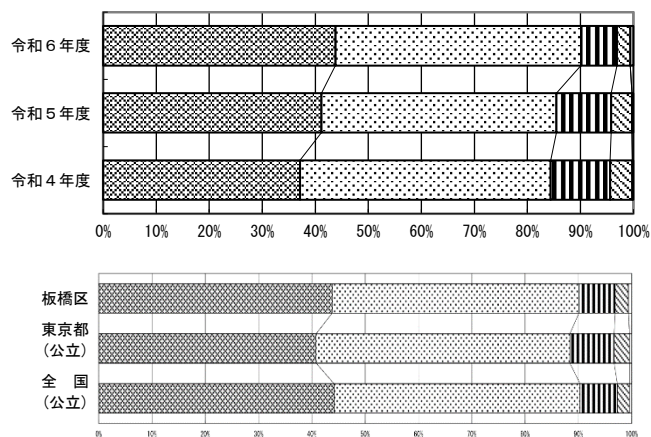


【10】先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区



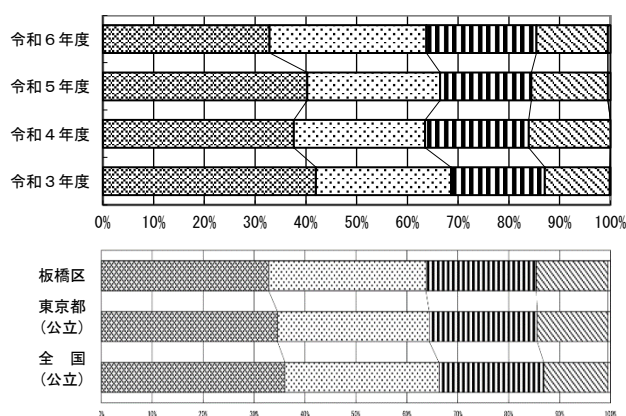
【11】将来の夢や目標を持っている。

経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

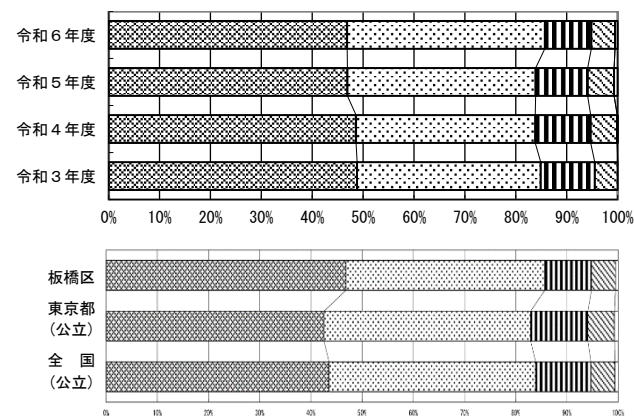


【16】学校に行くのは楽しいと思う。

経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区



【18】友達関係に満足している。

経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答

【19】普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。

経年変化



東京都



板橋区

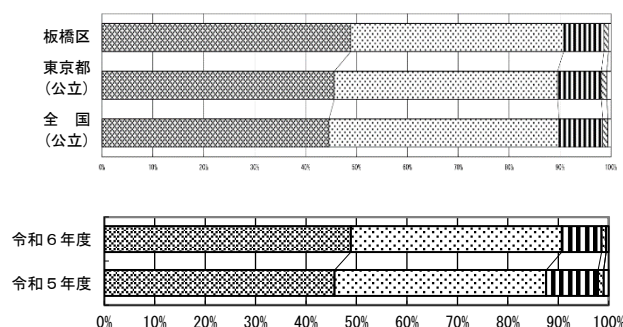
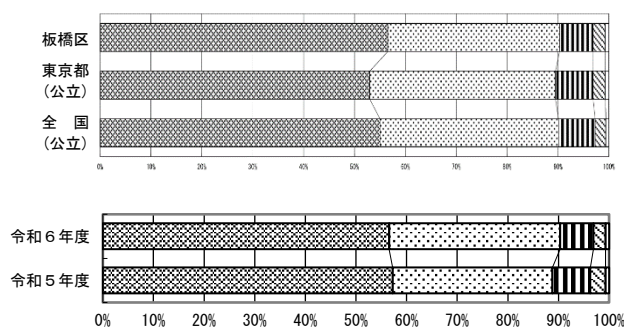
全国



板橋区

- 1. よくある
- 2. ときどきある
- 3. あまりない
- 4. 全くない
- その他
- 無回答

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



○「先生がよいところを認めてくれる」と「自分にはよいところがある」(0.46)、「学校に行くのは楽しい」(0.37)、「幸せな気持ちになることがある」(0.34)には相関関係がある。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と「自分にはよいところがある」(0.30)、「学校に行くのは楽しい」(0.38)、「友達関係に満足している」(0.31)、「幸せな気持ちになることがある」(0.33)には相関関係がある。

教師をはじめとして多様な大人と関わり、よいところを認められる経験、いつでも相談できるという安心感をもつことが、生徒のウェルビーイングの向上につながると考えられる。

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。（「教育振興基本計画」令和5年6月16日閣議決定）

Ⅳ 学校質問紙に関する調査結果

IV 学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析・経年変化）

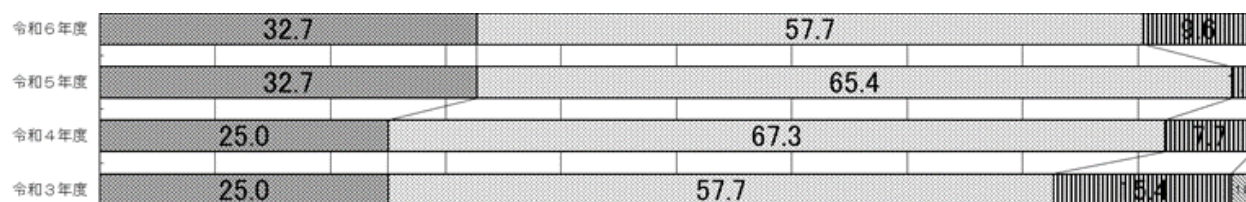
1 小学校

学習指導

(33)前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を取り入れましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	32.7	57.7	9.6	0.0
	都	36.1	57.8	5.8	0.1
	国	29.2	60.1	10.5	0.1

【（３３）の質問における板橋区の経年変化】

■1.よく行った ■2.どちらかといえば、行った ■3.あまり行わなかった ■4.全く行わなかった



(25)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
	区	23.1	65.4	11.5	0.0
	都	22.3	66.8	10.7	0.1
	国	20.1	68.1	11.6	0.2

(26)授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
	区	15.4	69.2	15.4	0.0
	都	16.1	65.9	17.5	0.3
	国	12.4	65.9	21.3	0.4

一人一台端末等の活用について

(56)前年度までに、一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	80.8	17.3	1.9	0.0	0.0
	都	76.3	20.8	2.6	0.1	0.1
	国	69.0	24.2	6.0	0.5	0.1

(60)児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	26.9	26.9	34.6	7.7	3.8
	都	23.2	33.5	28.1	9.9	4.7
	国	17.4	27.6	28.8	15.5	10.5

- ・（３３）の質問の回答状況を確認すると、板橋区授業スタンダードが徹底されていることが推察される。
- ・（２６）の質問に対して肯定的な回答をした小学校の割合が全国平均や東京都平均よりも高い。
- ・一人一台端末を活用した授業はある程度実施できている、と考えられる。

今後に向けたポイント

- ①教師が教え込む授業ではなく、児童が主体的な学びを実現できるように、支援が必要な児童に配慮する。
- ②一人一台端末を活用することだけを目的にせず、一人一台端末を効果的に活用した協働的な学びをめざす。

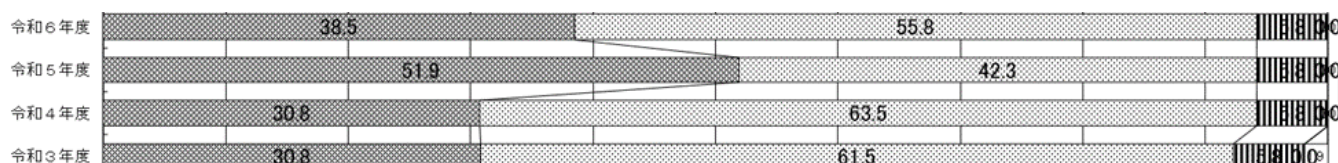
学校質問紙に関する調査結果（小学校）

小中一貫教育・コミュニティ・スクールについて

(68) 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	38.5	55.8	5.8	0.0
	都	20.6	52.0	24.5	2.7
	国	18.8	45.2	28.8	7.1

【（６８）の質問における板橋区の経年変化】

□1.よく行った □2.どちらかといえば、行った □3.あまり行わなかった □4.全く行わなかった



(70) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえ、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	69.2	26.9	0.0	1.9	1.9
	都	38.9	48.6	5.9	0.4	6.1
	国	36.7	52.2	4.9	0.4	5.8

・（６８）の質問の回答状況を確認すると、全国や東京都の平均より高い割合で、小中一貫教育が実施されていると考えられる。

・コミュニティ・スクール等の活動により、学校と地域や保護者の相互理解が進んでいると考えられる。

今後に向けたポイント

①中学校と共有した目的をもって学びのエリア研修を実施し、目的をもったコミュニティ・スクールを継続する。

②学校と地域や保護者の相互理解が深められるように、継続してコミュニティ・スクールについて教員の意識を高める。

カリキュラム・マネジメントについて

(12) 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	30.8	67.3	1.9	0.0
	都	41.4	55.9	2.6	0.0
	国	38.8	58.5	2.7	0.0

(13) 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	48.1	50.0	1.9	0.0
	都	43.0	54.1	2.7	0.0
	国	40.4	56.6	2.9	0.0

・（１２）の質問に対して、同じ質問が出題された平成３１年度と同等の割合で各項目回答された。

・（１３）の質問に対して、よく行ったという学校の割合が昨年度より１．９ｐ増加した。

今後に向けたポイント

引き続き、調査等を基に明確な根拠のある教育課程を編成し、各教科等の教育内容を相互に捉えた上で、PDCAサイクルを確立し、教育目標に根差したカリキュラム・マネジメントを実施する。

Ⅳ 学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析・経年変化）

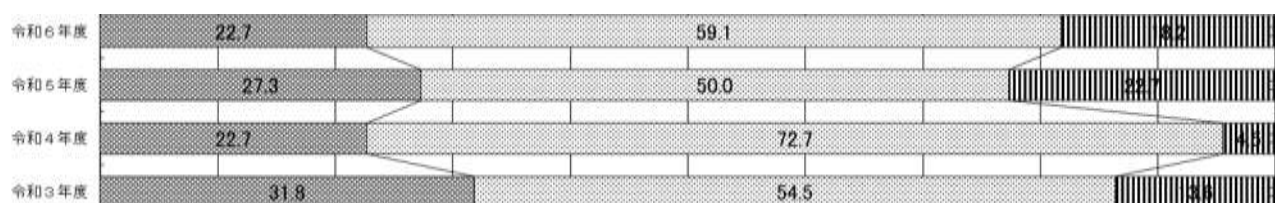
1 中学校

学習指導

(33) 前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を取り入れましたか。（％）		よく行った	どちらかといえ、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	22.7	59.1	18.2	0.0
	都	34.4	52.4	12.8	0.3
	国	26.1	59.0	14.5	0.3

【（３３）の質問における板橋区の経年変化】

□1.よく行った □2.どちらかといえ、行った □3.あまり行わなかった □4.全く行わなかった



(25) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。（％）		そう思う	どちらかといえ、そう思う	どちらかといえ、そう思わない	そう思わない
	区	13.6	77.3	9.1	0.0
	都	24.4	65.5	9.8	0.0
	国	20.6	67.8	11.3	0.2

(26) 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている。（％）		そう思う	どちらかといえ、そう思う	どちらかといえ、そう思わない	そう思わない
	区	22.7	59.1	18.2	0.0
	都	26.7	60.9	12.0	0.0
	国	16.2	66.5	17.0	0.2

一人一台端末等の活用について

(60) 前年度までに、一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	77.3	18.2	4.5	0.0	0.0
	都	71.1	20.7	6.3	1.1	0.6
	国	67.5	23.3	7.7	1.2	0.2

(63) 生徒同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	36.4	36.4	22.7	4.5	0.0
	都	39.1	24.8	22.4	9.6	3.9
	国	31.1	26.3	24.4	11.8	6.3

- ・（３３）の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合が昨年度と比べて＋４．５ｐ 増えている。板橋区授業スタンダードの徹底については二極化がやや緩和されたと推察される。
- ・（２５）の質問に対して、肯定的に回答をした中学校の割合が全国平均や東京都平均よりも高い。
- ・一人一台端末を活用した授業はある程度実施できている、と考えられる。

今後に向けたポイント

- ①生徒自ら課題を設定する等の学習の流れを示し、板橋区授業スタンダードを徹底するとともに効果を実感する。
- ②一人一台端末を効果的に活用し、自ら考え、他者と工夫して話し合うことが苦手な生徒にも支援する。

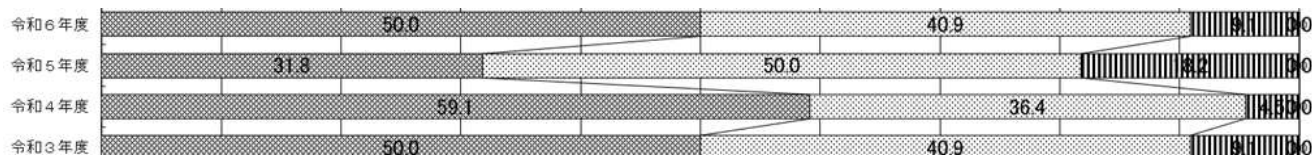
学校質問紙に関する調査結果（中学校）

小中一貫教育・コミュニティ・スクールについて

(72) 前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	50.0	40.9	9.1	0.0
	都	26.5	48.4	21.3	3.3
	国	24.8	44.2	25.2	5.6

【（72）の質問における板橋区の経年変化】

□1.よく行った □2.どちらかといえば、行った □3.あまり行わなかった □4.全く行わなかった



(74) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	36.4	59.1	0.0	4.5	0.0
	都	28.9	55.7	7.7	0.9	6.3
	国	28.6	55.5	6.9	0.8	8.2

・全国や東京都の平均より高い割合で、小中一貫教育が実施されており、（74）の質問に対して、「よく行った」と回答した中学校の割合が増えている。

・コミュニティ・スクール等の活動により、学校と地域や保護者の相互理解が進んでいると考えられる。

今後に向けたポイント

①学びのエリア研修において、小学校と目的を共有し、授業研究の内容や回数、意義について確認する。

②学校と地域や保護者の相互理解が深められるように、継続してコミュニティ・スクールについて教員の意識を高める。

カリキュラム・マネジメントについて

(12) 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	22.7	68.2	9.1	0.0
	都	35.8	56.2	7.9	0.0
	国	35.4	58.6	5.8	0.0

(13) 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	36.4	63.6	0.0	0.0
	都	42.4	53.9	3.5	0.0
	国	40.5	56.0	3.4	0.0

・（12）の質問に対して、同じ質問が出題された平成31年度より否定的な回答をした中学校の割合が増加した。

・（13）の質問に対して、肯定的な回答をした中学校の割合が昨年度より4.5p増加した。

今後に向けたポイント

引き続き、調査等を基に明確な根拠のある教育課程を編成し、各教科等の教育内容を相互に捉えた上で、PDCAサイクルを確立し、教育目標に根差したカリキュラム・マネジメントを実施する。

V まとめ

V まとめ

本年度は国語・算数・数学での全国学力・学習状況調査となった。平成31年度（令和元年度）以降の調査問題では、学習指導要領の考え方への各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することになっている。今年度は、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容が出題されていることが特徴的である。また、「児童生徒質問調査」を、原則全ての児童生徒を対象に、児童生徒の活用するICT端末を用いたオンラインによる回答方式で実施した。

板橋区では、平成31年度から「読み解く力」を育成する取組を始め本年度で6年目になる。「板橋区授業スタンダード」「読み解く力」の2点を大きな学力向上の柱として取り組むことで、本年度は、小中学校の国語、算数及び数学の正答率は全国を上回り、東京都とほぼ同等まで向上した。

今年度は、正答率が高い問題や低い問題、児童・生徒質問紙から「授業革新のポイント」として、日々の授業に取り入れることのできる具体的な取組について取り上げた。

これまでの本区及び各学校の学力向上に関する取組を踏まえつつ、本冊子を基に各学校の現状を把握し、授業革新に必要な課題等を明らかにして全教員で情報共有し、課題の解決を図っていただきたいと考えている。また、区教育委員会としても、本調査結果から見えた成果や課題を今後の教育施策に反映させていく。

1 平均正答率及び平均無解答率の比較について

《平均正答率について》

本区の平均正答率について全国・東京都と比較した。

令和6年度は、小学校は国語、算数ともに全国を上回る結果であるとともに、国語については東京都の平均正答率と同等となり、算数においてもほぼ同等の結果となった。

中学校では、国語、数学ともに全国を上回り、東京都の平均正答率とほぼ同等の結果となった。

《平均無解答率について》

令和6年度は、小学校において、国語、算数ともに、全国より無解答率が上回った。中学校においては、国語、数学において、全国と比較し無解答率は下回った。

無回答率の高かった問題を分析したところ、無解答率が高い国語の問題において、「複数の条件を満たしながら自分の考えをまとめる」問題は、解答はしているが複数の条件が満たされていないという誤答が多いことも分かった。

引き続き、板橋区授業スタンダードを徹底するとともに、正確に文章を読み解き、諦めずに粘り強く取り組む「学びに向かう力」を育成することが重要である。

2 正答数分布について

平均正答数は、小・中学校において、国語、算数・数学とも全国を上回った。

中央値については、中学校数学が全国を上回り、それ以外については、全国と同等であった。今後も、日々の授業の充実はもちろん、家庭学習の励行や放課後補充教室の実施等の関連を図り、個に応じた指導を充実させていく。

3 各教科の結果の特徴について

(1) 正答率が低い問題について

正答率が低い問題には以下の内容があった。

- 国語
 - ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（小学校）
 - ◇目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（小学校）
 - ◇文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。（中学校）
 - ◇目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。（中学校）
- 算数・数学
 - ◇道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。（小学校）
 - ◇球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。（小学校）
 - ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。（中学校）
 - ◇複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。（中学校）

これらの課題を解決するために、以下の取組を、授業革新、家庭学習、放課後補習教室、長期休業中の課題等を学校全体で組織的に計画して推進していく。

- ☐ 各教科における基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
- ☐ 教科書を活用し、文または文章の内容や構造を理解して、正確に読み解く力を育成する。
- ☐ 複数の情報や条件を踏まえて、自分の考えを70～120字程度で記述して説明させる。
- ☐ 児童・生徒の主体的な学びに向けて「板橋区 授業スタンダード」による授業革新を一層推進する。
- ☐ 一人一台端末を活用して個別最適な学びを実現する。
- ☐ 「板橋区 教科等指導専門官」の授業公開等、参考となる授業を積極的に参観する。
- ☐ 学びのエリアの小・中学校で学力調査の結果の分析を共有して、9年間で一貫した共通の取組を実践する等、カリキュラム・マネジメントをする。
- ☐ 家庭学習及び長期休業中の課題等について、教職員の共通理解と保護者への周知を一層充実させる。
- ☐ 学校支援地域本部と連携して、放課後補習教室等の充実を図る。

4 児童・生徒質問紙と教科の平均正答率との相関関係について

児童・生徒質問紙調査との関連性から、次の点が各調査の正答率と強い関連があることが分かった。

- 自分のよさが分かっていること。
- 学校に行くのは楽しいと思うこと。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいること。
- 授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいること。
- 授業でコンピュータなどのICTを活用していること。

○地域や社会をよくするために何をすべきか考えること。

今後も、保護者や地域の方々と連携して、以下の取組を推進していくことが大切である。

- 各教科及び特別活動等の授業の中で、自分のよさを実感できる働き掛けをする。
- 「板橋区 授業スタンダード」を徹底し、多様な学びの充実に向けて取り組む。
- 一人一台端末を活用し、自力解決や協働的な学習を展開する。
- 主体的に授業に取り組み、話し合い活動をする授業革新を一層推進する。
- 総合的な学習の時間を通して、地域や社会のために自分ができることを考えさせる。
- 地域との関わりをもつ機会を設定する。

5 学校質問紙と教科の平均正答率との相関関係について

学校質問紙に関する調査結果から、教科の平均正答率との相関関係が高い傾向がみられる質問項目の中から、本区の施策等と関連のある質問項目について分析し、以下のことが分かった。

○主体的・対話的で深い学びについて

前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか（「どちらかといえばそう思う」を含む）。

小学校において、全国や東京都に比べて低い傾向がみられた。特に、「そう思う」（どちらかといえばそう思うを含む）と回答した割合が、全国と比較して7ポイント以上低い傾向にあった。

☞児童・生徒が主体的に学習できる授業の実現するために、多様な学びを充実させ、総合的な学習の時間等に、教科横断的な視点でその目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列するなどして、教育内容の質の向上をめざすようにする。

◎ICTの活用について

児童・生徒が一人一台端末を、授業でどの程度活用しましたか。

小中学校共にほぼ毎日と週3回以上を合わせて95%以上で、全国や東京都と比較して非常に高い結果であった。

☞授業の中で効果的に端末を活用する場面も多く見られるようになった。今後も、授業における効果的なICT活用について研修等を行い、一層推進していく。

◎学級活動について

学級生活をよりよくするために、学級活動（学級会）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか。（「どちらかといえばしている」を含む）

小中学校共に全国や都を上回る結果であった。「いたばし学級活動の日」の設定など学級活動の取組について理解と実践が深まったと考えられるよ。

☞今後も「いたばし 学級活動の日」等を含め、年間計画の作成・見直しをし、より充実した学級活動を実施することで親和的な学級づくりを基盤とした子どもたちの自治的能力の育成を図っていく。

○家庭学習について

前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（「どちらかといえば行った」を含む）。

家庭学習の方法について具体例を挙げながら教えたという項目については、小学校では、

全国より高い傾向が見られたが、中学校は全国と比較して低い傾向がある。

☞今後も、各学校の児童・生徒の学力調査の分析を踏まえ、学力の定着・向上に向けて、一人一台端末の活用も含め、家庭と連携しながら取り組む必要がある。

◎小中一貫教育に向けた取組

学力調査の分析結果について、近隣の小（中）学校と成果や課題を共有した。（「どちらかといえば行った」を含む）

小（中）学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。（「どちらかといえば行った」を含む）

学力調査の分析結果についての近隣の小中学校との共有については、小中学校共に全国と比較して高い傾向にあった。また、授業研究などの合同の研修については、国や東京都と比較し非常に高い傾向であった。各学びのエリアでの取組が一層進んでいる。

☞今後も、小中一貫教育の充実に向けて、各学校の学力調査の分析や児童・生徒の課題について学びのエリアの小中学校で共有し、9年間を通した学力の定着・向上に向けた取組について研修や研究を一層推進していく。

◎コミュニティ・スクールに向けた取組

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。

全国や東京都と比べて非常に高い傾向にあった。コミュニティ・スクール実施に向けて、各学校において、保護者・地域との連携を深め、協働して児童・生徒を育成する意識の醸成に向けた取組が進んでいる。

☞今後も、保護者や地域の方々と、「育てたい児童・生徒像」について共通理解を図りながら、連携・協働を一層充実させ、児童・生徒の育成に取り組む。

本報告書を参考に、各学校が自校の学力に関する状況を詳細に把握して課題を分析し、「読み解く力」の育成を軸にした授業革新を一層推進し、児童・生徒の学力向上を図っていく。

令和6年9月 板橋区教育委員会事務局指導室